

さいたま市
しあわせ倍増プラン2009

市民評価報告書

平成22年12月

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会は、平成21年5月のさいたま市長選において、市長が市民の皆さんに示したマニフェスト「さいたま市民しあわせ倍増計画」を市の計画として位置付け、着実に実現していくために策定された「しあわせ倍増プラン2009」に掲げられた事業の進捗度や成果を評価するとともに、その評価結果を市民へ報告をするために、平成22年7月2日に設置されました。

さいたま市では、このプランの実現を市政運営の最優先事項として位置付け、最少の経費で最大の効果を上げることが基本とし、その達成に向け、全市を挙げて取り組むこととされていますが、市民評価委員会では、この倍増プランに掲げる139事業の全てについて、その進捗状況や成果を客観的に検証するため、これまで、延べ11回の会議を開催しました。

評価・検証に当たりましては、各事業の重要性も含め、その進捗状況や成果について市民目線による客観的な評価を基本としました。

このたび、平成21年度における各事業の評価結果を取りまとめましたので、広く市民にお知らせをするものです。

市民評価委員会としては、この報告書が今後の倍増プランの各事業の推進に際し、十分活用されることを願っております。

平成22年12月

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

委員長	廣瀬克哉
委員長職務代理	長野基
	磯田和男
	伊藤巖
	伊藤麻美
	猪野智久
	川嶋真之輔
	栗原俊明
	野崎博行
	延原正弘
	橋本克己
	町田直典
	三浦匡史

目 次

1	評価の方法	
(1)	達成度	1
(2)	重要度	1
2	全体の評価結果	2
3	分野別の評価結果	
(1)	達成度	4
(2)	重要度	5
4	平成21年度の達成度評価ベスト3	
☆第1位☆	達成度 a - 9. 0	
<25-1>	小児救急	6
☆第2位☆	達成度 a - 8. 9	
<33-2>	介護者サロン	6
<51-1>	都市公園の整備	6
☆第3位☆	達成度 a - 8. 8	
<24-3>	放課後児童クラブ	7
<37-2>	介護予防	7
<39-7>	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯 パトロールの促進	8
<48-7>	民間建築物の緑化	8
5	平成21年度の達成度評価ワースト3	
▼第1位▼	達成度 c - 3. 5	
<II-1>	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を 制定します	9
▼第2位▼	達成度 c - 3. 7	
<II-5>	「文化都市創造条例」を制定します	9
<9-3>	パブリックコメントの充実	9
▼第3位▼	達成度 c - 4. 0	
<47>	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術 のまちづくりに配分します	10
<51-2>	暮らしの道路・スマイルロードの整備	10
<54-7>	介護福祉士資格取得支援	11

6 分野別評価

I	行動宣言	1 2
II	条例宣言	1 4
1	行財政改革	1 7
2	市民・自治	2 3
3	子ども	2 5
4	高齢者	3 1
5	健康・安全・安心	3 4
6	環境・まちづくり	3 8
7	経済・雇用	4 3
8	地域間対立を越えて	4 8
7	評価を終えて（委員所感）	5 0

8 資料

・	しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会設置要綱	5 6
・	しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会名簿	5 7
・	しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 平成22年度開催実績	5 8
・	しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 平成21年度評価結果一覧	5 9
・	表の見方	6 7

1 評価の方法

評価の方法は、さいたま市で実施している内部評価と市民評価委員会で実施する評価の整合性を保ちつつ、比較・検討ができるように、市民評価委員会におきましても、市の内部評価と同様の評価方法としました。

一方で、市民評価委員会独自の取組として、各事業について市民目線による重要度の評価も実施しました。

(1) 達成度

各事業の達成度を評価するに当たっては、倍増プランに記載されている、各事業の①数値目標等（取組指標・方針）、②取組内容、③工程表等に照らし合わせて、平成21年度の取組実績について、まず「進捗度」をa, b, c, dの4区分で評価することとし、a, b, c, dそれぞれの基準点として、aは9点、bは7点、cは4点、dは1点を付与しました。

また、事業の取組実績において、何らかの工夫を凝らし、より効率的な手法で取り組んだなどの加点要素がある場合は1点加点、逆に減点要素がある場合は1点減点、どちらでもない場合は加点・減点なしとしました。したがって、倍増プランの工程表どおり事業が進捗している場合は、bの7点となります。

各事業に対する各委員の評価の集計に当たり、進捗度（a～d）については、委員の評価で1番数の多いものとし、評価点（10～0点）については、委員の平均値をもって市民評価委員会の評価としました。

(2) 重要度

各事業の重要度については、全ての事業が重要であるとの認識に立った上で、ABCの3段階で評価することとし、「Aは相対的に重要度が高い」、「Bは相対的に重要度が普通」、「Cは相対的に重要度が低い」としました。

なお、評価に当たっては、市民目線による各委員の価値観、判断を尊重し、委員会としての集約はせず、ABCそれぞれの人数を記載するにとどめました。

< 評 価 基 準 (達成度) >

評価基準	進捗度	加減要素	点数
目標を上回っている	a	↗	10
		→	9
予定どおり実施している	b	↗	8
		→	7
		↘	6
目標に遅れがあるが実現に向けて実施している	c	↗	5
		→	4
		↘	3
未着手、目標に大幅な遅れがある	d	↗	2
		→	1
		↘	0

※市民評価委員会の評価は平均点で算出

< 評価基準(重要度) >

A: 相対的に重要度が高い
B: 相対的に重要度が普通
C: 相対的に重要度が低い

※評価は分布で表示

2 全体の評価結果

達成度については、139事業中、121事業（87.1%）が「a 目標を上回っている」または「b 予定どおり実施している」という結果であり、おおむね順調に進捗していると判断できます。

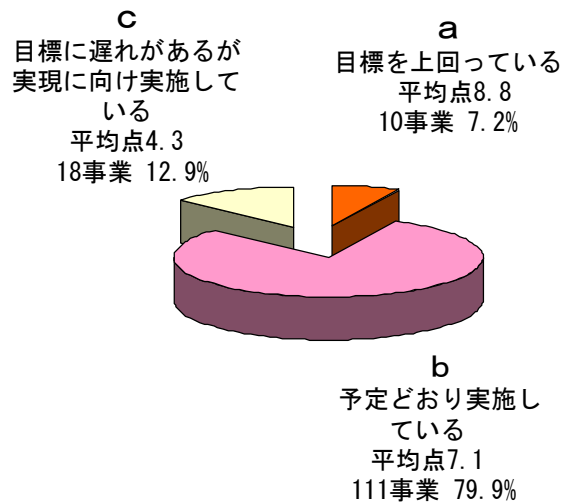
しかし、18事業（12.9%）は、「c 目標に遅れがある」ことから、遅れの原因となった課題等の解決を図り、事業の推進に向け、より一層の努力を求めます。また、「d 未着手、目標に大幅な遅れがある」とされた事業はありませんでした。

なお、点数については、全体平均点は6.8点で、市の内部評価の6.9点を若干下回る結果となりました。

重要度については、全事業を通して「A 相対的に重要度が高い」が31.0%、「B 相対的に重要度が普通」が62.3%、「C 相対的に重要度が低い」が6.7%という結果となりました。

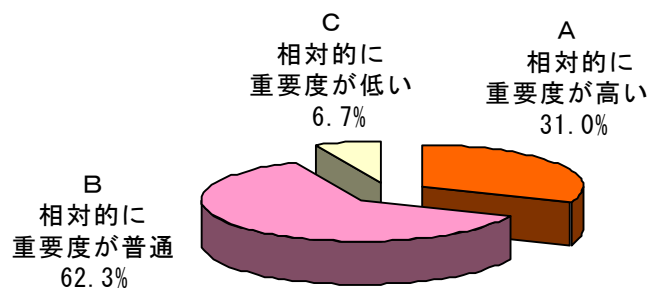
全体の達成度

進捗度	市の内部評価			市民評価委員会の評価		
	平均点	事業数	割合	平均点	事業数	割合
a 目標を上回っている	9.0	13	9.4%	8.8	10	7.2%
b 予定どおり実施している	7.1	108	77.7%	7.1	111	79.9%
c 目標に遅れがあるが実現に向け実施している	4.2	18	12.9%	4.3	18	12.9%
d 未着手、目標に大幅な遅れがある	—	0	0%	—	0	0%
全体	6.9	139	100%	6.8	139	100%



全体の重要度

重要度	評価分布
A 相対的に重要度が高い	31.0%
B 相対的に重要度が普通	62.3%
C 相対的に重要度が低い	6.7%
計	100%

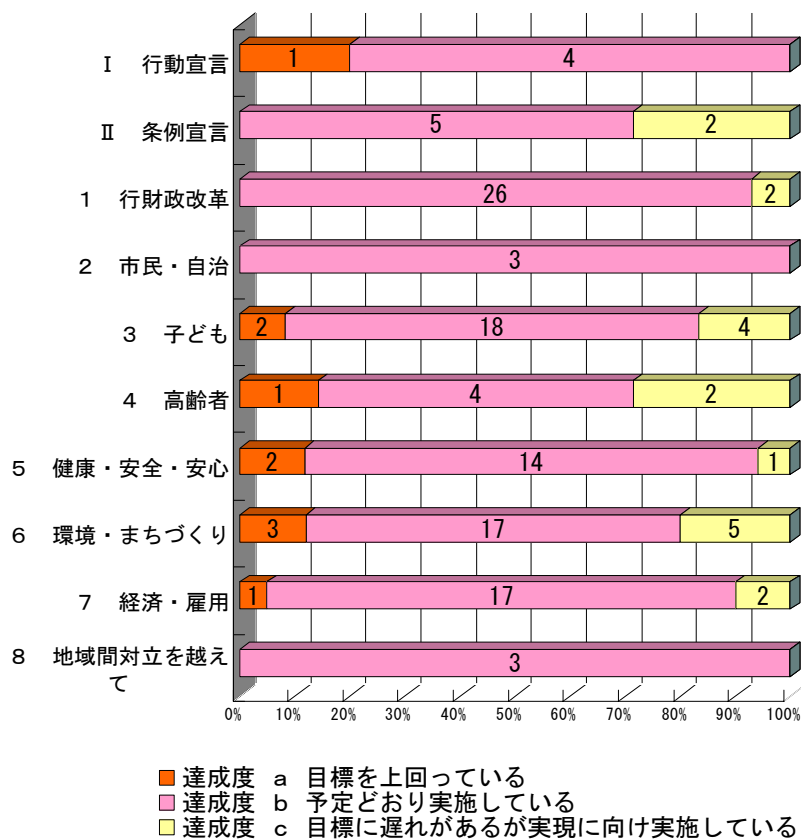


3 分野別の評価結果

(1) 達成度

達成度を分野別に見ると、おおむね平均的に進捗していると判断できます。なお、子どもや環境・まちづくりの分野の事業の遅れは、さいたま市の未来や市民生活に大きな影響を与えるものですので、着実な事業推進を求めます。

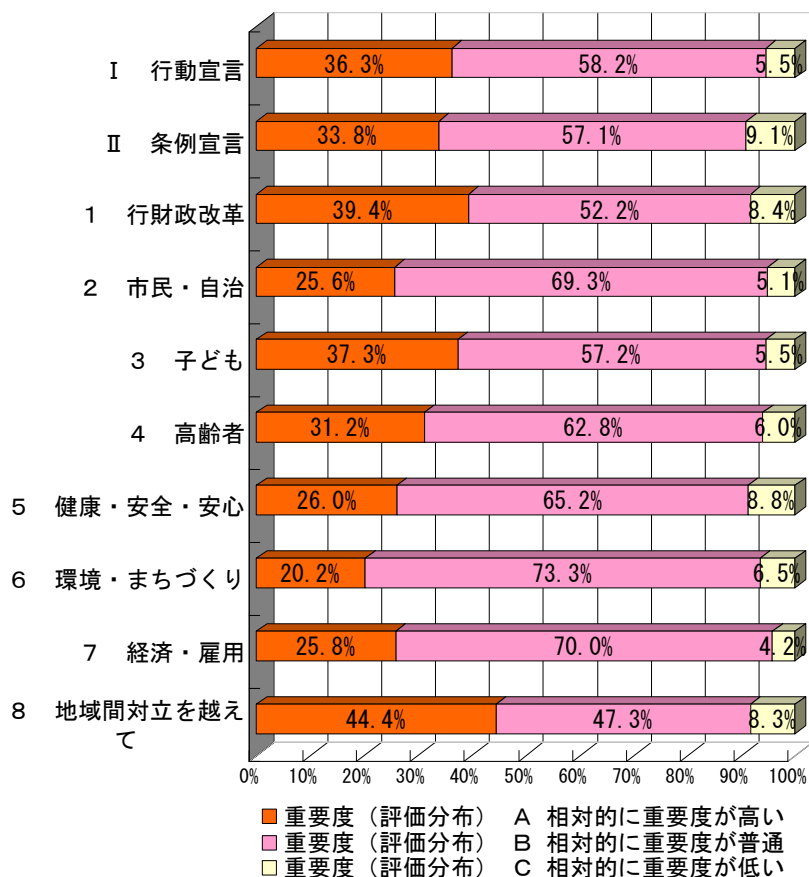
分 野	市民評価 委員会 平均点	達 成 度				事業数計
		a	b	c	d	
		目標を上回っている	予定どおり実施している	目標に遅れがあるが実現に向け実施している	未着手、目標に大幅な遅れがある	
I 行動宣言	7.4	1	4	0	0	5
II 条例宣言	6.1	0	5	2	0	7
1 行財政改革	6.9	0	26	2	0	28
2 市民・自治	6.9	0	3	0	0	3
3 子ども	6.9	2	18	4	0	24
4 高齢者	6.3	1	4	2	0	7
5 健康・安全・安心	7.1	2	14	1	0	17
6 環境・まちづくり	6.7	3	17	5	0	25
7 経済・雇用	6.9	1	17	2	0	20
8 地域間対立を越えて	7.0	0	3	0	0	3
全体	6.8	10	111	18	0	139
割合		7.2%	79.9%	12.9%	0%	100%



(2) 重要度

重要度を分野別に見ると、さいたま市が合併して誕生した経緯を踏まえ、地域間対立を越えるための事業展開は特に重要であると考えます。また、行財政改革や子ども分野の事業については、さいたま市の将来を担う基盤事業とも言えるものですので、更なる事業の進展を求めます。

分 野	事業数	重要度（評価分布）		
		A	B	C
		相対的に重要度が 高い	相対的に重要度が 普通	相対的に重要度が 低い
I 行動宣言	5	36.3%	58.2%	5.5%
II 条例宣言	7	33.8%	57.1%	9.1%
1 行財政改革	28	39.4%	52.2%	8.4%
2 市民・自治	3	25.6%	69.3%	5.1%
3 子ども	24	37.3%	57.2%	5.5%
4 高齢者	7	31.2%	62.8%	6.0%
5 健康・安全・安心	17	26.0%	65.2%	8.8%
6 環境・まちづくり	25	20.2%	73.3%	6.5%
7 経済・雇用	20	25.8%	70.0%	4.2%
8 地域間対立を越えて	3	44.4%	47.3%	8.3%
全体	139	31.0%	62.3%	6.7%



4 平成21年度の達成度評価ベスト3

☆第1位☆ 達成度 a-9.0

北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。
(4年以内)

<25-1> 小児救急

●評価理由等

二次や三次の医療機関で受診していた初期救急患者の割合62%を平成24年度末までに35%以下に抑制する目標に対し、初年度で38.9%まで抑制したことから高い評価となりました。

「医療体制の整備は、指定都市単独での努力では限界があるかもしれないが、市民の安全を守る上では必須の課題」、「救急系医師、ナース不足をカバーするためにますます重要。更なる資金投入が必要」との意見がある一方で、「成果指標上の進捗と市の取組との因果関係については検証が必要」などの意見がありました。

☆第2位☆ 達成度 a-8.9

空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)

<33-2> 介護者サロン

●評価理由等

平成21年度の数値目標である3か所を大幅に上回る11か所に設置できたことから高い評価となりました。

「潜在的なニーズの存在が、数値目標以上の実施を可能にしたのではないか」、「介護する側の心のよりどころが介護される側の喜びにつながる。素晴らしいこと」との意見がある一方で、「現実には、地域包括支援センターとNPOとの連携が課題となっている。行政のコーディネート機能にも期待する」などの意見がありました。

☆第2位☆ 達成度 a-8.9

下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)

<51-1> 都市公園の整備

● 評価理由等

平成21年度の数値目標である2公園を上回る5公園を整備し、身近な公園の不足する地域19.35%を18.3%にしたことから高い評価となりました。

「防災面での計画と連動しつつ、財政制約を見ながらの計画的な実施を期待したい」という意見がある一方で、「もっと目標を高くしても良いのではないかと感じた。気軽に憩える場所がもっと増えてほしい」などの意見もありました。

☆第3位☆ 達成度 a-8.8

保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。
(4年以内)

<24-3> 放課後児童クラブ

● 評価理由等

放課後児童クラブの受入可能児童数について、事業計画にある360人を上回る461人まで拡大したことから高い評価となりました。

「目標をもっと高く掲げてもらいたい。いつまでに待機児童ゼロを達成する、といった考え方が示されるべき」などの意見がありました。

☆第3位☆ 達成度 a-8.8

食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。
～元気倍増大作戦～ (4年以内)

<37-2> 介護予防

● 評価理由等

「介護予防」については、介護予防一般高齢者施策事業の平成21年度目標数12,000人に対し大幅に上回る17,481人の参加者を得たことから高い評価となりました。

「高齢者本人のクオリティ・オブ・ライフの維持と医療費抑制の観点から重要であり、予防のために積極的に努力して効果を出したことを高く評価した」との意見がある一方で、「事業趣旨から見て重視すべきは特定高齢者の方」などの意見もありました。

☆第3位☆ 達成度 a-8.8

万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)

<39-7> 地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進

●評価理由等

平成21年度自主防犯活動団体数の6団体増の目標に対し、27団体増と大幅に増加したことから高い評価となりました。

「団体数の増加だけでなく、活動継続のための啓発活動も必要」、「地域防犯活動を安全面だけでなく、そこで住む人々の心の豊かさにつながるものにしていてもらいたい」などの意見がありました。

☆第3位☆ 達成度 a-8.8

公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)

<48-7> 民間建築物の緑化

●評価理由等

平成21年度の数値目標である200㎡を上回る1,210㎡を緑化できたことから高い評価となりました。

「ヒートアイランド対策に加えて、省エネルギー対策としての効果も期待される」との意見がある一方で、「屋上緑化は効果として期待できない」との意見もありました。

5 平成21年度の達成度評価ワースト3

▼第1位▼ 達成度 c-3.5

＜Ⅱ-1＞ 市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)

●評価理由等

平成21年度中に条例を制定する目標であったが、市議会6月定例会に提案するも、9月定例会で否決され、制定に至っていないことから低い評価となりました。

「施策についての是非はあるが、いち早く議会に条例案を提出したことは高く評価できる」、「議会で否決されたが、今後の選挙で、3期12年を限度として市民に問うことも必要である」との意見がある一方で、「市政とあまり関連しない、3期目の妥当性は市民が決めること」、「現市長の任期に関することであり、条例化が成立しなくても、実質的には目標達成は可能」との意見がありました。

▼第2位▼ 達成度 c-3.7

＜Ⅱ-5＞ 「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)

●評価理由等

文化都市創造条例検討委員会の設置要綱を制定しただけで、委員会の設置には至っておらず、条例制定に向けて何ら議論も行われていないことから低い評価となりました。

「文化は市民の大切な財産であり、また市民をつなぐ大きな要素である」との意見がある一方で、「条例の意図が不明確であり、必要性が理解できない」との意見がありました。

▼第2位▼ 達成度 c-3.7

情報公開日本一を実現します。(2年以内)

＜9-3＞ パブリックコメントの充実

● 評価理由等

平成 21 年度のパブリックコメントの平均意見提出件数が前年度の 51 件に対し、31 件と減少したほか、制度研修会の実施に至っていないことから低い評価となりました。

「単純に数字だけの判断が正しいとは思わないが、パブリックコメントの趣旨が正しく伝わる広報のしかたが必要であり、研修会の未実施は減点対象」、「意見提出件数がなぜ減ったのか検証する必要がある」などの意見がありました。

▼第 3 位▼ 達成度 c-4.0

<47> 新規建設事業費の 1% を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3 年以内)

● 評価理由等

文化・芸術まちづくり創造検討委員会の委員選定が遅れ、検討にも至らなかったことから低い評価となりました。

「まちの魅力づくりとして大変重要であり、来るべき時に備え、検討は続ける必要はある」との意見がある一方で、「大切な視点だが経済状況に左右されやすい分野でもある。継続していくために、何のための文化・芸術事業か、目的を明確にして欲しい」などの意見もありました。

▼第 3 位▼ 達成度 c-4.0

下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4 年以内)

<51-2> 暮らしの道路・スマイルロードの整備

● 評価理由等

平成 21 年度の数値目標である生活道路 120 件を下回る 109 件の整備であったことから低い評価となりましたが、ただし、着工件数では目標に達しており、「着工件数で評価を行うべきである」との意見もありました。

▼第3位▼ 達成度 c-4.0

介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。（4年以内）

<54-7> 介護福祉士資格取得支援

●評価理由等

国の交付金の遅れが原因との説明もありましたが、平成21年度の数値目標である筆記試験対策講座及び実技試験対策介護技術講習の受講者数280人を大きく下回る144人であったことから低い評価となりました。

「高齢化社会の到来により、介護福祉士は更なる需要がある。資格取得支援により、必要な施設に必要数が配置されて、多くの市民が明るく元気に過ごせるさいたま市にして欲しい」との意見がある一方で、「国レベルの制度設計などを通して改善していかなければ、対症療法に自治体が努力を重ねても、根本的な解決は難しい」、「重要なのは、資格取得支援より資格保有者の待遇改善である」などの意見がありました。

6 分野別評価

I 行動宣言			
総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-7.4	36.3%	58.2%	5.5%

市民の声、現場の声を大切にする徹底した現場主義を実践するための、「行動宣言」の5事業についての総合達成度は、全10分野の中で最も高く、「b-7.4」の評価となった。

重要度評価については、全10分野の中では、C評価の割合が「経済・雇用」、「市民・自治」に次いで低かった。

この分野において最高得点を得た事業は、「現場訪問を400回実施」であり、平成21年度の数値目標の70回を上回る97回の現場訪問を実施したことから、「a-8.5」という高い評価となった。

「費やす時間と対話できる人の数の限界から、効果が少ない、市長自ら対話するのは非効率と考える市長が多い中、トップが自ら感じることに意味がある」との意見がある一方で、「現場の声が市政に反映されているかに関しては、明確なデータが見受けられない」などの意見もあった。

得点が最低となった事業は、「タウンミーティングを全10区で計40回開催」であり、平成21年度の開催目標20回に対し、21回開催していることから数値目標はクリアしているものの、1回当たりの参加人数が30人に満たないことから、「b-6.9」と7を下回る評価にとどまった。

「初年度でもあり、タウンミーティングをスタートさせたこと自体を評価したい」との意見がある一方で、「タウンミーティングを行った結果を、どのように市政に反映していくのが重要である」などの意見もあった。

「マニフェスト検証大会を毎年開催」については、「達成状況やその問題点を『見える化』して、市民にプラスもマイナスも説明していくことが重要である」とする意見や、「さいたま市の今回の取組により、住民自治の本旨・あり方を、市民の一人ひとりが見つけ直すきっかけとなってほしい」との意見があった。

「学校訪問を全校実施」については、「予定どおり30校の訪問を実施したが、小学校訪問が多く、高等学校は実施されていないなど、偏りがある」との意見があった。また、「子どもたちと現場の教師、保護者の声を聴く姿勢は大切である」との意見や「学校側で、受入準備が整った状況での訪問については、問題点は見えることが少なく、自然体での実施が望ましい」などの意見があった。

「職員との車座集会を100回開催」については、目標20回に対し21回の開催と予定どおりの進捗であり、おおむね順調と評価した。

「単なる形だけのプラン進行ではなく、市政改革のために市長と職員が、想いや言語をつき合わせていく過程は大変重要である」との意見や、「市政の方向性を明確に伝達するためには、市長の直接的な想いを職員に告げたり、職員との対話は効率的事務の改善には必要であるかもしれない」、「車座集会で出された職員の意見を、どう活かすかが問われる」などの意見があった。

I	行動宣言
---	------

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。 (4年以内)		b-8	b-7.3	<ul style="list-style-type: none"> ・しあわせ倍増プラン自体の取組を市民に知らせる工夫がほしい。 ・前年度事業の検証大会は、事業の修正を考慮すると次年度の9月までに開催すべきである。 	6	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が市政の現状や進行状況、今後の展望を知り、市政への参加を促す絶好の機会と考える。 ・達成状況や問題点を「見える化」して市民に説明していく事が市政にとって益々重要である。
	しあわせ倍増プランの策定	目標どおり進捗							
I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。 (4年以内)		b-7	b-6.9	<ul style="list-style-type: none"> ・計21回のタウンミーティングの開催とホームページによる公開がなされていることにより、数値目標、取組内容、事業計画のとおりに進捗していると判断した。 ・参加人数を目安として入れるべきである。 	4	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声を迅速に市政に反映するために、直接対話する事業は重要である。 ・TMを行った結果を、どのように市政に反映し、どのように発信されていくのかが明確ではないため、この事業がもつ重要性がはっきりしていない。
	各区年2回開催(20回)	目標どおり進捗(21回)							
I-3	現場訪問を400回実施。 (4年以内)		a-9	a-8.5	<ul style="list-style-type: none"> ・97回の現場訪問は高く評価したいが、区役所や公共施設などいわば市役所内が多いので、高い評価にはしにくい。 ・今後は、市民がさまざまな課題の解決のために努力している現場を積極的に訪問するなど、市民の意見を取り入れる工夫を期待したい。 	3	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな現場で市長の顔を見ることができること、意見を述べることのできるのは市民にとっては市政が近くに感じられるが、数値目標にとらわれると、内容の充実に対する取組が疎かになるのではないかと懸念がある。
	現場訪問70回実施	97回実施							
I-4	学校訪問を全校実施。 (4年以内)		b-7	b-7.2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問30校の実施など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。H21年度、高校は未訪問とのことなので、今年度は改善を望む。 ・学校訪問は、学校側で受入準備を整えた状況での訪問では問題点は見える事が少ないと思う。自然体での実施が望ましいと感じる。 	3	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・次の世代との対話は変わらず重要である。 ・現場訪問にも、学校を訪問している場合がある。両者の位置付けの違いなどについても説明が必要である。必ずしも両者を区別する必要はないのかも知れない。
	学校訪問30校実施	目標どおり進捗(30校)							
I-5	職員との車座集会を100回開催。 (4年以内)		b-7	b-7.1	<ul style="list-style-type: none"> ・車座集会21回の実施など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・車座集会の実施回数が予定どおり進捗し、かつアンケート調査によって職員の意識に変化が現れたことが明示されたため、工程表どおりと判断した。 	4	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の仕事に対する意欲の向上や仕事の方向性を導く上で非常に有効な手段である。 ・組織としてはとても大切なこと。意見の採用状況や今後の変化等ではさらに重要になるのでは。
	車座集会20回実施	目標どおり進捗(21回)							

Ⅱ 条例宣言			
総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6. 1	33.8%	57.1%	9.1%

来るべき地域主権時代に備え、独自条例を積極的に提案していくための「条例宣言」の7事業の総合達成度は、全10分野の中では最も低い「b-6. 1」の評価となった。

重要度評価については、「ノーマライゼーション条例」、「子ども総合条例」、「自治基本条例」及び「安心長生き条例」については、C評価がなく、A・B評価が主となっている一方で、「多選自粛条例」及び「文化都市創造条例」については、比較的C評価が多く、二極化の傾向となっている。

この分野において最高得点を得た事業は、「ノーマライゼーション条例」であり、予定どおり、協議会に専門委員会を設置し検討したことに加え、市民の声を聴くための「条例について話し合う100人委員会」を設置したことから、「b-7. 7」という高い評価となった。

「市民を巻き込んだ形で進行していく100人委員会は、さまざまな意見を拾い上げる場として、また、市民も意見を集約していく側となり、単なるサービスを受ける立場から脱却するよい機会になると思う」、「障害のある方や高齢者など、社会の弱者の視点から優しく住みやすい環境を整える長期的な視点は、将来の市の運営にとってもよい結果につながると感じる」との意見がある一方で、「条例の制定がゴールのように捉えることができる表記なので、制定後のことに関しても表記した方が望ましい」などの意見があった。

得点が最低となった事業である「多選自粛条例」については、平成21年度中に条例を制定する目標であったが、市議会6月定例会に提案するも、9月定例会で否決され、制定に至っていないことから、「c-3. 5」という評価となった。

「施策についての是非はあるが、いち早く議会に条例案を提出したことは高く評価できる」、「議会で否決されたが、今後の選挙で、3期12年を限度として市民に問うことも必要である」との意見がある一方で、「市政とあまり関連しない、3期目の妥当性は市民が決めること」、「現市長の任期に関することであり、条例化が成立しなくても、実質的には目標達成は可能」との意見があった。

「スポーツ振興まちづくり条例」については、予定どおり、平成21年度中(平成22年3月25日)に指定都市で初めて制定された。

「スポーツを通じたまちづくりというコンセプトそのものの意義を感じるので重要である」、「まちづくりのポイントとなる項目であり、単なるハコモノ整備ではなく、市民の暮らし方に関する政策への展開が期待される。条例化はあくまで出発点であり、今後それがどう活かされていくかが期待される」、「絵にかいた餅にならないよう、制定後の具体的なアクションが重要である」などの意見があった。

「自治基本条例」については、基本方針の策定、検討委員会委員の公募等、予定どおりの進捗であった。「自治に関する基本理念や基本事項を定め、市民に対する意思表示を行うことで、市民自治の確立に向けた一定の効果が期待できる」、「自治体の憲法と呼ばれる条例であることから重要度は高い」との意見があった一方で「これまでの指定都市で制定した条例が、どう生かされ、活用しているのかを検証することが必要である」などの意見があった。

II	条例宣言
----	------

No	項 目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメ ント	A	B	C	コメ ント
II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)		c-4	c-3.5	・議会マターであるので、目標どおりできなかったことは仕方がない。 ・議会で採択されるための説得力に欠けていた点については検討の余地があるのではない。	2	6	3	・条例を提案することで、市民が「多選」について考えるきっかけになったことは評価できる。 ・「倍增計画」では条例化と定めているが、現市長の任期のみに関するものであり、条例化が成立しなくても、実質的に目標達成は可能と思われる。
	H21年度中の条例制定	9月定例会で否決							
II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。(すぐ)		b-7	b-6.9	・体育施設の不足など質的な議論はあるが、進捗度としてはH21年度末までに条例を制定するという、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・H21年度末までに条例を制定するという工程表とおりの進捗であるが、実際に重要なのは条例を活用することであり、今後の進捗に期待する。	2	8	1	・まちづくりのポイントとなる項目であり、単なるハコモノ整備ではなく、市民の暮らし方に関する施策への展開が期待される。 ・絵にかいた餅にならぬよう、制定後の具体的なアクションが重要である。
	H21年度末までに条例制定	目標どおり進捗(H22.3.25制定)							
II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)		b-8	b-7.7	・条例検討専門委員会を開催し、予定どおり進捗していることから、進捗度「b」と判断した。また、広く市民から意見を取り入れる「100人委員会」を実施したことに対して加点した。 ・市民参加型の事業が多く、このような取組をスタンダードと考え、加点なしと判断した。	6	5	0	・条例の制定がゴールのように捉えられる表記なので、制定後のことに関しても表記したほうが望ましい。 ・障害のある方や高齢者など社会の弱者の視点から、優しく住みやすい環境を整える長期的な視点は、将来の市の運営にとっても良い成果につながると思う。
	専門委員会での検討	目標どおり進捗							
II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。(2年以内)		b-7	b-6.9	・工程表にある児童福祉専門分科会を開催し、検討を開始しており、条例の制定に向けて、目標どおり進んでいる。 ・取組実績や市民満足度向上に向けた取組、課題の内容からは実施した以上の成果を感じることができず、他事業(例：学校訪問での意見や声)との関連も感じられなかったことから、減点と判断した。	3	8	0	・社会を構成している子ども・大人・高齢者・障害者等、共にどのような社会を創っていくのかは大変重要と考える。 ・未来を担う子どもを育てている人たちを、どういふ姿勢で応援していくかは、とても大切だと思う。
	専門分科会での検討	目標どおり進捗(3回開催)							
II-5	「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)		c-4	c-3.7	・検討委員会の設置が年度内にできなかったことについて低い評価となったが、取り戻せないほどの遅れではない。 ・進行が遅れた理由を表記すべき。原因を把握しているのかどうか、また計画の遅れに関して修正が可能なのか心配である。	2	6	3	・日々の生活に関するものや経済活動に関する条例の多くが2年以内の制定となっており、プロジェクトチームが作業に追いつかない状況があるのであれば、制定時期の見直しが必要ではないか。
	検討委員会の設置・検討	委員会未設置							

II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。 (3年以内)		b-7	b-7.1	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の委員構成のうち、公募委員の構成比が高いことは、市民参画という面で評価できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市政の柱となる条例なので、充実したプロジェクト運営を望む。市民への広報等、認知してもらうために具体的な方策の検討が必要である。 ・権力から市民を守る、市民一人ひとりの幸福追求を保障できるような条例の制定であれば意味がある。
	条例制定基本方針の策定	目標どおり進捗					
II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。 (4年以内)		b-7	b-6.8	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや他市取組調査など、工程表どおり進捗しているため、順調と判断した。今後の展開も検討していると思うが、社協以外との協働が感じられず、他事業とのシナジー効果を活かしながらの進捗ができないかと感じたため、減点した。 ・H21年度内の目標設定がわかりにくく、もっとわかりやすい目標設定を行うべきである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉制度に対して不安を感じる人が多いので、市のスタンスを明確にすることは、大変意味がある。 ・さいたま市にとっては、既にいくつもの課題が見えている喫緊の課題であり、重要度は高いと思う。
	アンケート、他市取組調査	目標どおり進捗					

1 行財政改革			
総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6.9	39.4%	52.2%	8.4%

徹底した行財政改革と生産性の高い都市経営、行政の無駄をなくすコスト削減、行政情報の積極的な「見える化」などを目指す「行財政改革」の28事業の総合達成度は、「b-6.9」となった。

重要度評価については、「地域間対立を越えて」に次いでA評価の割合が高かった。

この分野において最高得点を得た事業は、外郭団体の役員等への再就職を平成22年度末までに見直す「職員の自動的な天下りを廃止します」であり、目標年度より1年前倒で実施したことから、「b-8.3」の高い評価となった。

一方で、「外郭団体への職員の推薦制度を廃止した点を評価したが、公募制の運用実態について検証しないと、形式だけの実現に終わってしまう」、「代表者、役員の問題が本質ではなく、外郭団体の役割の再確認や、必要があれば統廃合などの見直しを行うことの方が重要」、「やみくもに天下り禁止をうたうと、能力のある人が埋もれてしまう」などの意見があった。

得点が最低となった事業は、「パブリックコメントの充実」であり、平成21年度のパブリックコメントの平均意見提出件数が前年度の51件に対し、31件と減少したほか、制度研修会の実施に至っていないことから、「c-3.7」の評価となった。

「単純に数字だけの判断が正しいとは思わないが、パブリックコメントの趣旨が正しく伝わる広報のしかたが必要であり、研修会の未実施は減点対象」、「意見提出件数がなぜ減ったのか検証する必要がある」などの意見があった。

「公共施設マネジメント会議設置」については、平成21年度中に基本方針を策定するなど予定どおり進捗し、さらに公共施設現況調査を前倒しで実施したことから、「b-7.8」という高い評価となった。

「市民の活動の場、交流の場、ひいては新しい公共の担い手としての市民を誕生させる場としての公共施設のあり方は大変重要である」という意見や「都市部の自治体では、新規投資に焦点を合わせるべき時期から、ストックの維持管理を軸とすべき時期に移ってきている。その転換を明確にするために重要である」などの意見があった。

また、「市長の退職手当を50%減額します」や「市長給与を10%削減します」については、それぞれ平成21年12月に条例を制定し、対象範囲を市長以外の特別職にも拡大し実施したことから高い評価となった。一方で重要度については、条例を既に制定したことから優先度が低くなるとの観点もあり、Cの割合が高かった。

「行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します」では、平成21年10月に条例を制定し、平成21年度中に9人の任期付職員を採用したことから「b-7.0」の評価となった。

「任期付の専門家を活用することは、政策課題追及のための一つの手段であり、一定の範囲内で、継続して取り組むことが必要である」、「外部の血を入れることはますます重要である」、「早急なシステム化や行政側において担う人材の育成は重要である」などの意見があった。

1	行財政改革
---	-------

No	項 目		達成度		重要度											
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメ ン ト	A	B	C	コメ ン ト							
1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)				<p>・「推進本部」を市長直轄の組織としたこと、民間人を登用したことを評価した。いかに役割を果たしていくのかについては、これからのことである。</p> <p>・民間人2名程度の採用(注:登用ではない)では少なすぎる。また、どの程度の決定権を与えているのかが評価のポイントである。</p>	6	5	0	<p>・効率的な行政運営のために、また「新しい公共」の確立のために重要なことだと思う。</p> <p>・実務経験を有する専門家を登用することで、議論が活性化し、行財政改革により一層弾みをつけると考える。</p>							
	-1	行財政改革推進本部の設置	b-7	b-7.0		<p>・H21年度の数値目標である25事業に対し、48事業の見直し・縮小・廃止を実施したことは、大変努力したのではないかと評価し、加点した。</p> <p>・目標数を上回る事務事業の縮小・廃止が行われ、新たな点検枠組みも導入されたことを評価し、加点した。</p>	7	4		0	<p>・市長をはじめとする政策調整機構によるリーダーシップ、調整力が問われる取組である。</p> <p>・まったなしのテーマ。資金投入して一気に進めるべき。</p> <p>・歳入が減少するなか、無駄の削減は必須。</p>					
		組織の設置及び民間人採用										H21年11月設置、民間人2名採用				
	-2	事務事業評価の見直し	b-8	b-7.8								<p>・H21年度の数値目標等のとおり補助金等見直し基準の策定、運用の開始、削減内容の公表がされている。しかし、削減の結果生じる社会的効果の検証作業内容(方法)までフォローされていないため、加点・減点はできない。</p> <p>・時代が変わる中で、聖域なき見直しは必要である。また、見直しの背景には、これからのまちづくりに向けた「市民参加と協働、市民活動の推進」「新しい公共の実現」などの「哲学」が必要である。</p>	6	5	0	<p>・補助金を受けて活動している団体の中には、貴重な活動を行っているところがあると思うので、その活動を止めてしまわないような慎重な検討を希望する。</p> <p>・単なるパフォーマンスにならないよう十分な説明やプロセスの透明化を期待する。</p>
		見直しによる事業 25事業														
-3	補助事業の見直し	b-7	b-7.0	<p>・外郭団体改革推進委員会の設置など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。</p> <p>・外郭団体改革推進委員会の設置並びに改革プランの策定は工程表どおりに進められた。H21年度中に実質的に1団体が廃止されたが、継続的に体質改善を促進とする個別団体レベルでの取組内容の成果の具体的なフォローができていないため、加点・減点はできない。</p>	6				5							
	補助金等見直し基準の策定					目標どおり進捗										
-4	外郭団体改革	b-7	b-7.1			<p>・基本方針の策定など、H21年度の数値目標等のとおり進めた上で、公共施設マネジメント計画の策定を一年前倒しすることを決定した意欲の高さを評価し、加点した。</p> <p>・当初予定していた公共施設マネジメント基礎調査・基本方針の策定事業だけでなく、公共施設現況調査の実施事業まで取り組んだ点は加点評価。計画に対し、現場での状況により柔軟に事業計画を変更して取り組む姿勢を評価した。</p>	6	5		0	<p>・都市部の自治体では、新規投資に焦点を合わせるべき時期から、ストックの維持管理を軸とすべき時期に移っており、その転換を明確にするために重要である。</p> <p>・市民の活動の場、交流の場、新しい公共の担い手としての市民を誕生させる場として公共施設は重要である。</p>					
	委員会の設置及びプランの策定											目標どおり進捗				
-5	公共施設マネジメント会議設置	b-8	b-7.8									<p>・基本方針の策定など、H21年度の数値目標等のとおり進めた上で、公共施設マネジメント計画の策定を一年前倒しすることを決定した意欲の高さを評価し、加点した。</p> <p>・当初予定していた公共施設マネジメント基礎調査・基本方針の策定事業だけでなく、公共施設現況調査の実施事業まで取り組んだ点は加点評価。計画に対し、現場での状況により柔軟に事業計画を変更して取り組む姿勢を評価した。</p>	6	5	0	<p>・都市部の自治体では、新規投資に焦点を合わせるべき時期から、ストックの維持管理を軸とすべき時期に移っており、その転換を明確にするために重要である。</p> <p>・市民の活動の場、交流の場、新しい公共の担い手としての市民を誕生させる場として公共施設は重要である。</p>
	基本方針の策定			目標どおり進捗												

No	項目		達成度		重要度					
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント	
2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。 (すぐ)				<p>・目標どおり検討委員会を設置したほか、区民アンケート調査の実施や区役所への移譲業務選定など、計画を上回る部分もある。</p> <p>・H22年度の検討の結果と実行が本来の評価の対象である。</p>	6	6	0	<p>・市民ニーズ・意見をしっかり把握し、迅速に取り組んでもらいたい。</p> <p>・遠方に住まう人々・時間的制約がある市民の利便性を高めるという目的を十分考慮し、経済的効果に配慮しつつ、決して手段のみが先行することのないよう願う。</p>	
	-1	窓口改革・権限移譲		b-7						b-7.0
		検討委員会の設置	H22年2月設置							
	-2	予算		b-7						b-6.9
	区長予算要求方法等の検討	目標どおり進捗			<p>・区長の予算要求方法等の検討など、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。単に区長による予算要求方法などの検討を行うだけでなく、H22年度の予算編成において実践的に取り組まれているので、減点要素はなしとした。</p> <p>・区長が自ら予算方針を説明するのは良いシステムである。執行と成果に責任を持たせるシステムを構築してもらいたい。</p>	6	6	0	<p>・今後の「自治」のあり方を考えるとき、「区役所」の権限や責任の範囲はとても重要な事項と考える。</p> <p>・現場レベルへの予算の分権化はサービス対応へもスピードが求められる今日、重要な要素である。</p>	
-3	組織・人事		b-7	b-6.8	<p>・区長の組織及び人事権の検討など、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断。より効果的な取組になるような努力がなかった点が残念である。</p> <p>・区長の組織及び人事権の検討など、工程表とおりの進捗ではあるが、検討の内容などが不透明である。</p>	6	6	0	<p>・今後、より魅力的なさいたま市となるためには、区、および区長への権限移譲は大変重要な項目と考える。</p> <p>・各区の特徴を打ち出していくためには、ヒト・カネ・モノ・スケジュールの権限を明確にすることが重要。</p>	
	区長の組織及び人事権検討	目標どおり進捗								
-4	くらし応援室の設置		b-7	b-7.1	<p>・7月にくらし応援室を設置するなど、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。それが質的に対住民サービスの向上につながったかの情報がなく、加点要素なしと判断した。</p> <p>・計画とおりの組織構成にて組織が創設された。「区民サービスの充実・強化」の具体的な指標が設定されていないため、それがどのように図られたかは判断できない。</p>	5	5	2	<p>・具体の行政サービス水準の向上として市民に伝わるメッセージ役ともなり得る機能である。継続的な改善努力が期待される。</p> <p>・市民にとって「駆け込み寺」にあたるような窓口は必要。</p>	
	7月にくらし応援室を設置	目標どおり進捗								
3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。 (すぐ)				<p>・区長マニフェストの策定・公表・検証など、H21年度の数値目標のおおりに進捗と判断したが、今後の記載内容の検証などを経ないと効果が見えないので、現時点では加点、減点要素なしと判断した。</p> <p>・区長マニフェストの策定・公表・検証など、工程表とおりの進捗。より現場に近いところからマニフェストを作成すると単なるスローガンにならず、市民にとっても身近に感じることができる。</p>	4	7	1	<p>・人口10万人規模以上を所管する区役所は一般市並みともいえ、その組織能力を引き出すことができれば市民生活に成果をもたらす可能性を持つ。ただし、そのためには、組織全体の制度・機能の再構築と優秀な職員の育成が求められる。</p>	
		マニフェストの公表・検証	目標どおり進捗							
4	市長の退職手当を50%減額します。 (すぐ)				<p>・条例が計画どおり制定された。</p> <p>・市長だけでなく、副市長まで踏み込んだことは評価できる。</p>	2	4	4	<p>・適正な市政運営を明示するうえで市民に最もわかりやすい事業の一つと位置付けられる。</p> <p>・予定どおり条例を制定し、副市長も加えたことで、事業は完了。</p>	
		H21年度中の条例制定	目標どおり進捗(副市長含)	b-8						b-7.8

No	項目		達成度		重要度			コメント	
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B		C
5	市長給与を10%減額します。(すぐ)		b-8	b-7.8	・条例が計画どおり制定された。 ・副市長等についても含めた点を加点了。	2	4	4	・健全な行政運営を明示する有効な手段であるとはいえ、依然削減する余地が残っていると思う。 ・対象外だった他の管理職もバランス上検討すべき。
	H21年度中の条例制定	目標どおり進捗(副市長等含)							
6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。(すぐ)		b-7	b-6.9	・委員会の外部委員の増員など、工程表どおりに進捗。具体的な数値目標等を掲げ、厳しい財政状況の中、ムダ削減に取り組む姿勢は継続しなければならず、事業計画以上の成果を生み出して欲しい。 ・H21年度は準備のみという数値目標等であり、加點、減點要素ともになしと判断した。	4	8	0	・指定管理者制度の問題点を提示し、その取組が必要。単なる経費削減、数値目標の実現だけでは、市民生活、サービスの低下しか生み出さないのではないかと。 ・段階的な改善により、公正な「市場」の形成を期待する。
	委員会の外部委員の増員	目標どおり進捗							
7	一職員一改革提案制度を創設します。(すぐ)		c-4	c-4.2	・制度そのものは創設されたが、対外的発信の柱となる成果発表会は未実施であり、提案内容の事業化に向けた組織体制も整えられていない。 ・目標に向けて動き出していないわけではないが、オンラインで提案を出す場所を設定しただけに止まっており、減點要素ありと判断した。	7	4	1	・職員一人ひとりの意識改革が低いので、大至急のテコ入れが必要である。 ・義務感ではなく、自発的な提案が生まれる環境づくりを期待する。
	改善提案制度の創設	H21年9月制定							
8	政令指定都市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(すぐ)				・予算編成過程が公開されるなど、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。今後の公開対象拡大も設定されている。 ・査定の公表が議会の議決後では意味が半減するのではないかと。	6	6	0	・さいたま市が着実に変化していることを、市民にしっかりと伝えることが大事。良い事もそうでない事も、情報を共有すること。 ・市長の査定の様子をマスコミや市民に公開することで、市民の知る権利が積極的に担保されると思う。
-1	予算編成過程の公開		b-8	b-7.3					
	編成過程をHPで公表	H22年3月公表							
8-2	会派要望への対応状況の公表		b-6	b-6.6	・要望書への回答は計画どおり実施されたが、速やかに公表するとの数値目標については、若干の遅れがあったと判断し、減點とした。 ・要望回答書の公表はなされたが、議会後では予算の議決後ということであり、意味が半減するため、減點要素と判断した。	4	7	1	・執行部に対するチェック機関である議会の考え方をリアルタイムで公表し、リアルタイムで回答を公表することは、民主主義の基本である。 ・予算編成の透明化は大変意味があることで、今後も継続して取り組んで欲しい事業である。
	要望回答書の作成及び公表(2月)	目標どおり進捗(3月公表)							
9	情報公開日本一を実現します。(2年以内)				・情報提供の要綱を策定など、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。 ・情報公開は市民の参加のためにもっとも重要な事項であり、今後とも一層の公開を保障するための一歩として評価する。	6	5	1	・積極的・戦略的広報は市民からの信頼を得るためにも、また今後の都市間競争の上でも必須である。 ・情報公開は、市民と行政の距離を縮めるために最も重要なことと考える。
-1	情報提供体制の整備		b-7	b-7.0					
	情報提供の要綱を策定	目標どおり進捗							
-2	都市経営戦略会議の審議内容等の公表		b-7	b-6.9	・公表基準の策定及び公表など、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断し、b評価とした。具体的実施内容の目的と趣旨、その活用方法について不明なため加點・減點はなしとした。	4	6	2	・市民・納税者の知る権利を確保していくことが益々重要になっていく。 ・さいたま市の本気度を感じることができる取組なので、今後も継続してほしい。
	公表基準の策定及び公表	H21年9月公表							

No	項目		達成度		重要度			コメント	
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B		C
9	パブリックコメントの充実		c-4	c-3.7	<p>・制度研修会の実施に至っていない理由やパブリックコメントの実施件数が減少した理由について触れられていない点、次年度への建て直しに関して言及されていない点を減点した。</p> <p>・31件は確かに少ないが、単純に数字だけの判断が正しいとは思わない。パブコメの主旨が広く正しく伝わる広報の仕方が必要である。</p>	0	11	1	<p>・市民意見の反映のためのさまざまな手段の一つに過ぎない。総合的な意見反映体制の整備が重要であり、パブコメだけが特に重要なわけではない。</p> <p>・達成目標を掲げることのマイナスの側面が顕れた事業と思う。意見提出件数がなぜ減ったのか検証する必要がある。</p>
	制度の周知及び研修会開催	制度研修会未実施							
	-3								
-4	パブリシティの推進		b-8	b-7.5	<p>・情報発信に対し、マスメディアに取り上げられた率は、39.3%で、ほぼ目標どおりである。</p> <p>・これまでに比べて市長の動向やコメントがずいぶんメディアに載るようになったという印象があり、成果がでていると思う。</p>	4	6	2	<p>・市民に積極的に情報を届ける姿勢は、市民からの信頼を得るために必須である。</p> <p>・パブリシティの必要性を認識した上で、より効果的な充実した取組になるよう期待する。市長が直接メッセージを発信する場は大変重要であると考え。</p>
	市長定例会見を倍増及び教育長会見を実施	目標どおり進捗							
-5	身近な道路整備要望への対応状況の公表		b-7	b-7.0	<p>・H22年4月から要望受付が公表できたことから、工程表どおり準備が進んだと評価した。</p> <p>・万全の準備態勢かどうかは判断できないので、加減なしの評価とした。</p>	1	9	2	<p>・具体的な要望に対する丁寧な応答は、市民からの信頼を得るために重要である。ただし、人的、時間的コストを踏まえた業務構築、作業順位の設定が求められる。</p> <p>・対応状況の公表についても、速やかな対応を望む。</p>
	受付及び対応状況公表準備	目標どおり進捗							
-6	市へ寄せられた意見とその対応状況の公表		b-6	b-6.4	<p>・市への意見と対応状況の公表など、H21年度の数値目標等のおり進捗したと評価した。</p> <p>・HPでの丁寧な補足等充実している対応が見られる点は評価できるが、公開のタイミングが遅れた点は減点した。</p>	4	8	0	<p>・市民と行政との信頼関係を構築する上で非常に重要であるが、またコストがかかる取組でもある。こうした政策コミュニケーションのためのコストは、信頼される市役所となるためにも必要である。</p>
	市への意見と対応状況公表	対話集会公表未実施							
10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)		b-7	b-7.3	<p>・市長・副市長の兼職禁止など、H21年度の数値目標等のおり進捗したと評価。透明性・公平性という観点から即兼職の廃止を実現できたのは大変評価できる。</p> <p>・具体的実施内容の目的と趣旨、その活用方法について不明なため加点・減点はなしとした。</p>	1	8	2	<p>・代表者、役員の問題が本質ではなく、外郭団体の役割の再確認や必要があれば統廃合などの見直しを行うことの方が重要である。</p> <p>・単にトップを変えるだけでなく、外郭団体の意義や今後の展望など、中長期的な視点での提示があった方が良い。</p>
	市長・副市長の兼職禁止	目標どおり進捗							
11	職員の自動的な天下りを廃止します。(2年以内)		a-9	b-8.3	<p>・H21年度中に前倒して廃止を実施するなど、計画を上回って進捗したと評価した。</p> <p>・目標年次よりも前倒して外郭団体への職員の推薦制度を廃止した点を加点要素としたが、公募制の運用実態について検証しないと、形式だけの実現に終わっていないかどうか判断できない。</p>	3	4	3	<p>・能力があり、事務の効率化を図る上でも、専門的知識を持った職員の人的資源の有効活用は重要であることから「天下り」そのものは容認する。必要としない天下りは廃止する一方で、効率的な天下りは推奨すべき。</p>
	要綱の策定	職員の自動的な天下りの廃止を前倒して実施							

No	項目		達成度		重要度					
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント	
12	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。 (2年以内)									
	-1	行政職への民間人登用	b-7	b-7.0	・H23年4月までに15人程度採用するという数値目標等に対し、既に11名採用しており、順調といえる。 ・専門性を備えた民間の人材を活用することは有効と考える。	5	7	0	・「お役所」からの脱却のため、今後も然るべき人物の採用を続けてほしいと思います。 ・任期付採用による高度の専門性を備えた人材の確保は重要であるが、選考方法や処遇などの点で解決すべき課題も多いのではないか。取組が、その点の検証に基づいた改善に及んでいるかが不明。	
		条例の制定及び任期付職員の採用								
-2	民間企業等経験者の採用		b-7	b-7.0	・民間企業等経験者の採用など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・採用後の業務内容状況など、期待していた後の成果も確認し、今後に活かしてほしい。	4	7	0	・企業経験者採用を枠として設定することに一定の意味はあるが、一般採用の枠内で十分に多様な人材を確保できている例もある。 ・新人のみならず公務というものに問題意識を持った人の採用により、新たな発想や新たなサービスが展開されることを期待。	
		経験者5名の採用								
-3	適材適所の人事配置		b-7	b-6.9	・庁内公募制度の実施、人事評価についての庁内研修の実施など工程表どおりの進捗をしたと判断した。 ・組織の活性化、適材適所という視点からもより積極的に行って欲しい。	6	4	0	・適材適所の人事と意欲こそが改革の原点と考える。より重要なテーマとなってくると思われる。 ・組織における労務管理は永遠のテーマかもしれない。常に応用性のあるシステムとして運用することが重要。	
		要綱の策定								
13	電子市役所を構築します。 (4年以内)		b-7	b-7.0	・基幹系システムの再構築など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと評価した。しかし、基幹系システムの再構築と第3次情報化計画の関係性は読み取ることができなかった。ニーズに合ったサービスの変容は評価できる。 ・電子化によるメリット・目的と趣旨、その活用方法についての説明が不明なため加点・減点はなしと判断した。	5	6	0	・IT投資が投資のための投資にならず、利用者に活用されることが重要。アンケート調査など利用者意向が重視されている点は大事だが、行政と住民のコミュニケーションをどう進展させていくのかという観点は薄く、従来どおりの行政の事務をいかに改善するかの範疇にとどまっているように思われる。	
		情報システム再構築								

2 市民・自治

総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6.9	25.6%	69.3%	5.1%

地域の特性を大切にした個性的で魅力あるまちづくり、市民が主役のさいたま市づくりを目指す「市民・自治」の3事業の総合達成度は、「b-6.9」という評価となった。

重要度評価については、全10分野の中では、C評価の割合が「経済・雇用」に次いで低かった。

この分野において最高得点を得た事業は、「市民活動を推進するための『マッチングファンド制度』を創設します」と「大学コンソーシアムの仕組みを構築します」の2事業であり、ともに工程表どおり進捗していることから、「b-7.0」の評価となった。

「マッチングファンド制度の創設」については、既に平成22年3月に市民活動を支援するための基金を設置し、市民活動を支援するマッチングファンド制度を創設しているが、「新しい公共を形づくっていくために重要な施策」、「高齢化社会を迎え、市民活動の充実が豊かな地域社会の基礎となると考える」、「市民側の資源をもっと有効に使うため、市の宣伝が必要」、「工程どおり制度は創設されたものの、マッチングファンド制度が目指す本来の目的やねらいについては、市民はもとより庁内での理解すら不十分ではないか」などの意見があった。

「大学コンソーシアムの仕組みを構築します」については、庁内プロジェクトチームを立ち上げ、大学連携に関する調査を実施する等、工程表どおり進捗していることから、「b-7.0」の評価となった。

「大学との連携は市の活性化にもつながる。大学の施設を市民に開放、市の施設を大学に開放、互いの連携により文化面や芸術面など幅広い可能性が見出せる」、「市と大学、また各大学同士がチームを組むことで、地域課題等の解決能力やプロジェクトの実施に幅を持たせることができると考えられる」との意見がある一方で、「内容の無い、形だけの連携になってしまわないよう、双方の柔軟な対応を望む」などの意見があった。

得点が最低となった事業は、「区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します」であり、平成21年12月に、区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた検討を行う専門部会を設置するとともに、平成22年3月に中間報告を行うなど、計画どおり進捗したものの、ややスピード感に欠けるとの意見もあることから、「b-6.8」の評価となった。

「市民の要望や意見を反映する一つの場として重要な意義がある」、「区民会議は、地縁組織の担い手や実績あるボランティア団体、新興の市民活動団体、意欲ある市民など、行政区の単位での新たな出会いの機会と相互理解を進める場を提供していると評価している。一方で、位置付けも運用もあいまいなコミュニティ会議のあり方には、多くの課題がある」や「まだ完全に機能しているとは言えないが、市政・区政への市民目線を考えれば、重要な組織であることは変わらない」などの意見があった。

2	市民・自治
---	-------

No	項 目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメ ン ト	A	B	C	コメ ン ト
14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。 (すぐ)		b-7	b-6.8	<ul style="list-style-type: none"> ・区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた検討会議が設置され、中間報告まで出されているなど、H21年の数値目標等のおりに進捗したと判断した。 ・工程表にあるとおり専門部会を設置し、協議を重ねているようだが、現場である区民会議に検討状況が伝わっていない。 	3	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「区民会議」は地縁組織の担い手や実績あるボランティア団体、意欲ある市民など、行政区の単位での新たな出会いの機会と相互理解を進める場として評価する。 ・一方で、位置付けも運用も曖昧な「コミュニティ会議」のあり方には多くの課題がある。コミュニティ関連施設のあり方の見直しと併せ、「新しい公共」のあり方を考える上で重要な課題と考える。
	専門部会の設置	目標どおり進捗							
15	市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。 (2年以内)		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」の創設などH21年度の数値目標等のおりに進捗したと判断した。独自の仕組み、システムの取組は評価できる。 ・マッチングファンド制度が目指す本来の目的やねらいについては、市民はもとより市内での理解が不十分である。 	4	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共」に対する捉え方の転換につながるものであるが、それをどの程度の重みで実現しようとしているのかが明確ではない。 ・NPOや市民活動の力を活かしていくためには、資金面での支援は必要不可欠で、協働という観点からの重要な取組と考える。
	制度の創設及び基金の設置	目標どおり進捗							
16	大学コンソーシアムの仕組みを構築します。 (4年以内)		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアムの構築など、H21年度の数値目標等のおりに進捗したと判断した。しかし座談会の開催の計画・実績対比の表記がないため加減点の判断はできない。 ・事業効果について市長を囲み意見交換する中で、大学間連携による相乗効果を期待する。 ・年度ごとの計画を工程表に書くべきである。 	3	8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・市と大学、また各大学同士がチームを組むことで、地域課題等の解決能力やプロジェクトの実施に幅を持たせることができる。地域のために大学生を活用してほしい。経験を積む機会を無理やりにも与えるべき。 ・内容のない、形だけの連携にならないよう、双方の柔軟な対応を望む。
	検討会議の開催	目標どおり進捗							

3 子ども

総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6.9	37.3%	57.2%	5.5%

子どもの夢をかなえる力を高める教育改革、子どもたちが地域社会の中で健やかに育つ環境づくり、子どもの視点に立った親子の絆づくりを目指す「子ども」分野の24事業の総合達成度は、「b-6.9」となった。

重要度評価については、「地域間対立を越えて」、「行財政改革」に次いで、A評価の割合が高く、個別事業ごとで見ても全分野の中でAの割合が高いベスト5がこの分野に集中している。（「児童相談所の充実」、「保健所の充実」、「認可保育所」、「ナースリールーム・家庭保育室」、「小児救急」、「産科救急」）

この分野において最高得点を得た事業は、「小児救急」であり、二次や三次の医療機関で受診していた初期救急患者の割合62%を平成24年度末までに35%以下に抑制する目標に対し、初年度で38.9%まで抑制したことから、「a-9.0」となった。

「医療体制の整備は、指定都市単独での努力では限界があるかもしれないが、市民の安全を守る上では必須の課題」、「救急系医師、ナース不足をカバーするためにますます重要。更なる資金投入が必要」との意見がある一方で、「成果指標上の進捗と市の取組との因果関係については検証が必要」などの意見があった。

得点が最低となった事業は、「読み・書き・そろばんプロジェクト」であり、平成21年度の目標であるプロジェクト推進のための準備等を進めたものの、土曜日チャレンジスクールを活用した書道やそろばんの実施には至らなかったことから、「c-4.3」の評価となった。

「世界的な競争時代において、企業においては社員の能力が重要になる。基礎学力が低下している昨今、低学年から基礎を叩き込むことにより、未来の選択肢が広がる」、「日本の文化を学ぶ上でも書道やそろばんを学ぶことは、幅広い教養を身につけることになる」との意見がある一方で、「基礎学力の定着、向上は重要だが、正課教育の中で実現を図っていくことが主軸であり、この枠組みは、それに対する補完的な位置付けにとどまる」などの意見があった。

「待機児童ゼロプロジェクト」の「認可保育所」については、平成22年4月1日の目標保育所定員数300人増を上回る328人増に向けた準備等に努めた結果、首都圏をはじめ、都市部での待機児童数が増加する中で平成22年4月1日現在の待機児童数が154人となり、昨年4月1日より23人減少するなど、順調に推移していることから「b-7.2」となった。

「労働力の確保、税収増など、全てを考慮してプライオリティーは最上位」との意見がある一方で、「待機児童という数値目標と同時に、時間外や週末保育の充実や病児保育制度の拡充など、総合的な環境整備が緊急課題」、「目標をもっと高く掲げてもらいたい。いつまでに待機児童ゼロを達成する、といった考え方が示されるべき」などの意見があった。

3	子ども
---	-----

No	項 目		達成度		重要度						
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメ ン ト	A	B	C	コメ ン ト		
17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)	実施要領及び講師リスト作成	目標どおり進捗	b-7	b-6.7	・授業をいくつかの学校で実施するなど、H21年度の数値目標等のおり進捗したと判断した。 ・実施校数の数も重要だが、ニーズをしっかりと探る事が重要である。	6	7	0	・子どもの夢を育む、重要な事業である。 ・さまざまな経験、子どもの感性を磨くことが将来の市の発展につながると思う。	
18	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)										
	-1	読み・書き・そろばんプロジェクト	基礎学力定着プログラム策定及び読み・書き・そろばん実施	書道・そろばん未実施	c-4	c-4.3	・取組内容や事業計画(工程表)から考えると読み・書き・そろばんのみが未実施なので、予定どおり進捗しているが、減点評価と判断した。 ・読み・書き・そろばんの取組内容からはH21年度の取組について読み取ることができなかったため、判断が難しい。	3	10	0	・学校だけに全てを任せるとはならず、家庭や地域をも巻き込んだ仕組みづくりが必要と考える。 ・日本の文化を学ぶ上でも、書道やそろばんを学ぶことは幅広い教養を身につけることになると思う。
	-2	なわとび・逆上がりプロジェクト	縄跳び、逆上がりメニューの充実	実施要領策定、鉄棒指導マニュアル作成	b-7	b-7.0	・チャレンジカードの実施など、H21年度の数値目標等のおり進捗したと判断した。 ・長縄8の字飛び参加グループの増加率、逆上がり成就率の増加率も工程表どおりである。	1	8	3	・なわとび・逆上がりが成就することによって得られる、具体的な効果について記載してあると良いと思う。 ・基礎的な体力をつけるために、なわとび・逆上がりが必要の項目となった合理的な理由がわからない。
	-3	あいさつ・礼儀	あいさつ運動の推進	目標どおり進捗	b-7	b-7.0	・あいさつ運動の推進など、H21年度の数値目標等のおり進捗したと判断した。 ・「あいさつ運動」については、今後、PTAや関係者へのアンケート等が必要になると思われる。	4	7	2	・人間関係はあいさつから始まるものであると思う。これを促進することは極めて重要であるといえる。 ・本来は学校教育というより地域社会の役割だと思ふ。
	-4	早寝・早起き・朝ごはん	実施要綱の策定	H22年3月策定	b-7	b-7.0	・実施要綱を3月に策定するなど、H21年度の数値目標等のおり進捗したと判断した。 ・キャンペーンに策定された事がしっかりと反映される事が重要である。	2	10	1	・生活の当たり前の部分だが、当たり前となっていない現実がある。大人への教育施策としても意味があると思う。
19	「放課後子ども教室」を倍増します。(2年以内)	放課後チャレンジスクール新規教室整備10教室	目標どおり達成(11教室)	b-7	b-7.0	・マニュアル、手引きの作成は予定どおり完了し、新設箇所も工程表どおりの設置数である。 ・平日の放課後チャレンジスクールは市長部局が担当し、土曜チャレンジスクールは教育委員会が担当するという、わかりづらい仕組みである。	4	9	0	・地域住民等の協働や保護者との連携など、地域協働での活動として定着させることで、地域活性化にもつながることに期待する。 ・「マッチングファンド制度」や「夢工房 未来(みら)くる先生 ふれ愛推進事業」などとリンクさせれば良い。	

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
20	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員（保健師、児童相談所員など）を増員します。（2年以内）				<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉司・児童心理司の工程表どおりの増員の準備がされた。安否確認は目標どおり、通報から48時間以内に対応できる実績となった。 従来からあった活動に加え、家族支援プログラムを具体的に策定し、H22年度の各資格者増員体制を整えたことで予定どおりと判断した。 	11			<ul style="list-style-type: none"> 社会的にも深刻度を増している領域であり、少なくとも当面は行政の体制強化によって対応していくことが不可欠であり、優先度の高いものになっている。
	-1	児童相談所の充実	児童福祉司・児童心理司の増員受入れの準備	目標どおり進捗		b-7	b-7.0	1	
-2	保健所の充実				<ul style="list-style-type: none"> 工程表のうえでは、準備のみの年であり、遅れがあるわけではない。しかし、成果の判断指標のひとつでは、事態の悪化も見られるので、状況と取組段階との関連では追いついていない面があることを考慮して減点した。 「育児中、イライラすることが多い親の割合を10%以下に減らす」という目標の設定が適切ではない。 	10			<ul style="list-style-type: none"> 家庭の問題を解決すべきである。的を得た数値目標、明確な事業計画の記載を望む。
		保健師の増員受入れの準備	目標どおり進捗	c-4		c-5.3	1		
21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。（4年以内）				<ul style="list-style-type: none"> スクールサポートネットワークの10校が未実施のため「C」と判断した。 土曜チャレンジスクールでは予定校を上回る実施で積極的な取組が窺えるので加点した。 	5	8		<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上に期待がかかる。 「放課後子ども教室」との整理統合を図り、地域住民や市民に分かりやすくすることが必要ではないか。地域の市民活動団体（地縁組織やNPO）との連携が大切である。
		どちゃれ10校、SSN 10校	どちゃれ12校、SSN 0校	c-5		c-4.8	0		
22	子どもの想像力を高める「子ども博物館構想」を推進します。（4年以内）				<ul style="list-style-type: none"> 「子ども博物館構想」の定義がよく把握できないため、基本構想がまとめられた「（仮）子ども総合センター」の位置付けが把握できない。「（仮）子ども総合センター」が「子ども博物館構想」の第1の構成要素ということであれば、工程表どおりの進捗と判断する。 構想の取りまとめの中間段階であり、予定どおり進捗しているという以上の評価ができる段階ではない。 	0	7	6	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設の候補地、名称、機能など、全体像が分かりにくく、重複や無駄が生じていないかの検証がしにくくなっていると感じる。 新たな街づくりとしては依然として重要である。
		構想取りまとめの検討	目標どおり進捗	b-7		b-7.0			
23	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。（4年以内）				<ul style="list-style-type: none"> 参加人数は目標を大きく上回っているものの、数値的に若干甘かったように思う。目標数値を再考し、もっと多くの父親に体験してもらう必要があるのではないかと。 保育所ごとの参加人数にばらつきがあり、実施していない施設について、その理由を分析していない。 	3	8	2	<ul style="list-style-type: none"> 父親の育児への積極的な参加は非常に重要である。 企業や社会全体への理解と支援、PRが必要な事業であり、今後も継続して行っていくことが重要である。
	-1	1日保育士体験	父親の参加 320人	482人参加		a-9	b-8.0		
-2	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。子育て支援センターの活用				<ul style="list-style-type: none"> 利用者の利便性を考え、携帯電話からも利用できるWEBの活用など充分評価できる。 当初の目標では、H24年度末までに最低でも月1回開催とし、おおむね順調に進んでいるが、目標を高くしてもよいのではないかと。 	2	10	1	<ul style="list-style-type: none"> 今後も高い需要が望まれると考える。 NPO法人や社会福祉法人等との協働が必要な事業であり、今後も継続して行っていくことが重要である。土日の開所により事業の成果が決まるのではないかと考える。
		単独型子育て支援センター1ヶ所整備、土曜日開所7ヶ所	目標どおり進捗	b-7		b-7.0			

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
23	ワークライフバランスの認知度向上		b-6	b-5.9	<ul style="list-style-type: none"> ・PRのためのHP作成や子どもフォーラムでの周知活動などについては、予定どおりに実施したことを評価した。 ・ワークライフバランス会議の設置に向けての調整が、H21年度中には完了していないため減点した。 ・子育て世代だけがターゲットではないのではないか。 	0	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・政策領域として重要であるが、この事業としては啓発を中心とする段階に止まっており、市としての具体策に踏み込む前段階である。
	会議の設置及びHP作成	会議未設置、HP 9月作成							
-4	親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策		b-7	b-6.7	<ul style="list-style-type: none"> ・準備検討段階の年だが、今後に向けて目標どおり進捗していると判断した。 ・H21年度の事業計画が不明瞭ではあるが、講座等が進捗しているため「b」と判断した。 	2	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層、子育て世代が今後も継続して拡大が見込まれるさいたま市で、身近な公民館でこのような支援サービスが設けられることは虐待防止などの効果を含めて、意義があると思われる。 ・学校との連携などで効果は大きくなるはずである。
	検討委員会設置準備	目標どおり進捗							
24	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)				<ul style="list-style-type: none"> ・待機児童解消についての予定の定員増に向けて、300人予定を328人の定員増となる見込みが見つかったことは、予定以上の効果と評価し、加点した。 ・目標をもっと高く掲げてもらいたい。即ち、いつまでに「待機ゼロ」を達成するとの考え方が示されるべきである。 	9	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・待機児童の解消のためには、早急な対応が必要である。 ・保育所分野では、待機児童という数値目標と同時に、時間外や週末保育の充実、病児保育制度の拡充など、親が安心して働ける総合的な環境整備が緊急課題だと思う。
-1	認可保育所	b-7	b-7.2						
	認可保育所定員300人増			328人増					
-2	ナーサリールーム・家庭保育室		a-9	b-8.3	<ul style="list-style-type: none"> ・計画目標数値を上回る予定数値となっている点を加点した。 ・H21年度は、実際に受け入れ体制の準備段階であるため「a」評価としない。 ・目標をもっと高く掲げてもらいたい。即ち、いつまでに「待機ゼロ」を達成するとの考え方が示されるべきである。 	9	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・早急な成果が求められる事業だと考える。需要データだけではなく実情にあった事業展開を願う。
		ナーサリー等定員300人増							
-3	放課後児童クラブ		a-9	a-8.8	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数値を上回る受け入れ枠拡大を確保でき、負担平準化検討のための会議設置準備も進められた点を評価した。 ・放課後児童クラブがない学区への対応から整備促進として取り組んでいる点を加点した。 ・目標をもっと高く掲げてもらいたい。即ち、いつまでに「待機ゼロ」を達成するとの考え方が示されるべきである。 	8	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・人口構造が若いさいたま市では、継続的に需要拡大が見込まれる。 ・公設民設クラブの保護者負担の平準化、指導員の人材育成などの課題があげられているが、数的整備が進めば進むほど、質の確保が課題となる。
		受入可能児童数360人増							

No	項目		達成度		重要度					
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント	
25	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備します。 (4年以内)									
	-1	小児救急 子ども急患電話等の周知、2・3次医療機関での初期救急患者受信割合の抑制	62%を、H24年度末までに35%のところ、H21年度で38.9%まで抑制	a-9	a-9.0	・二次や三次の医療機関で受診していた初期急患者の割合62%を、初年度で38.9%まで抑制した点を評価した。 ・市の取組との因果関係については検証が必要である。	10	3	0	・医師の過酷な勤務状況が問題になっている昨今、このようなサポートはとても大切と考える。 ・医療体制の整備は、政令市単独での努力は限界があるかも知れないが、市民の安全を守る上で必須の課題である。
-2	産科救急 地域周産期母子医療センター設置促進	市有地貸付により自治医科大学に設置予定	b-7	b-7.0	・土地の無償貸付や産科医の確保など、予定どおりの進捗と判断した。 ・全面オープンに向けて鋭意努力し、一日でも早い実現を目指してほしい。	11	2	0	・安心して子どもが産めるさいたま市になればと望む。施設、設備、人員の確保が重要である。 ・生命に関する重要な事業だと考える。今後も継続して各機関と連携しながら進めてほしい事業である。	
26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。 (4年以内)									
		計画策定の検討及び中高一貫校の教育成果の活用の中 間検証	目標どおり進捗	b-7	b-6.9	・H21年度は準備時期（調査時期）と位置付けられる。中間検証に向けて、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。 ・学校ごとの計画書の作成や教育満足度の調査などを予定どおり実施した。	0	12	1	・満足度100%を目指すのはすばらしいと感じる。子どもたちが自分の学校に誇りを持つきっかけにもなるだろう。ただし、方向性が明確にならないうちの満足度評価はあまり意味が見出せない。
27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。 (4年以内)									
		プロジェクトチームの設置 不登校から継続的登校となった児童生徒の割合	Pチーム設置 不登校から継続的登校になった児童生徒の割合が低下	c-5	c-5.3	・いじめ対策プロジェクトチームなどの設置などは予定どおりと判断した。 ・不登校の状態から継続的に登校できる状態となった児童生徒の割合が低くなった点で減点した。	3	10	0	・対児童・生徒、そして、対保護者への教育行政における「心のケア」の重要性は増してきている。
28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。 (4年以内)									
		特別支援学級の新設	目標どおり進捗	b-7	b-7.0	・H21年度の目標数値を、予定どおり実施したと評価。 ・環境の整備を含め、トータル的に進めてほしい。	5	7	0	・単なる学校・学級の設置だけでなく、ハード・ソフト両面での充実を目指して欲しいと願う。今後とも引き続き重要であると考えている。
29	学校教育における食育を推進します。 (4年以内)									
		学校教育ファーム実施 小学校12校、中学校5校	学校教育ファーム実施 小学校5校、中学校12校	b-7	b-7.0	・小学校と中学校の内訳は異なっているものの全体数で予定どおりと評価した。 ・少しでも全国平均レベルに近づけるよう、地元生産者と連携し、対応すべきである。	3	10	0	・食育推進に期待が高まる。効果の検証が肝要である。 ・地産地消なども含め、さまざまな食への関心や体験学習等をより多く取り入れていただきたい。

No	項 目		達成度			重要度			
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コ メ ン ト	A	B	C	コ メ ン ト
30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)		b-8	b-7.4	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・インターネット安全教室を4月から実施する体制を整えるとともに、ネットアドバイザー制度の創設、安全サイトへの監視など予定どおりの進捗と判断した。 ・表に出ていない問題も含めれば、今後は件数も増大するはず。早期の対応が重要だと考える。 	3	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代のリテラシー教育として、また、学校・教育へのセキュリティとしての意味があると思われる。
	制度の創設準備、ネット安心キーパーの活動開始	ネット安心キーパーH21年9月開始							

4 高齢者			
総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6.3	31.2%	62.8%	6.0%

健康寿命を延ばし、高齢者が人間の尊厳と誇りを持って、安心して元気に長生きできるまちづくりを進めるとした「高齢者」の7事業の総合達成度については、全10分野の中では、2番目に低い「b-6.3」の評価となった。

重要度評価については、C評価がゼロである事業が7事業のうち4事業を占めていることが特徴である。

この分野における最高得点を得た事業は、「介護者サロン」であり、平成21年度の数値目標である3か所を大幅に上回る11か所に設置できたことから、「a-8.9」という高い評価となった。

「潜在的なニーズの存在が、数値目標以上の実施を可能にしたのではないか」、「介護する側の心のよりどころが介護される側の喜びにつながる。素晴らしいこと」との意見がある一方で、「現実には、地域包括支援センターとNPOとの連携が課題となっている。行政のコーディネート機能にも期待する」などの意見があった。

得点が最低となった事業は、「シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします」であり、平成21年度は、シルバー人材センター会員数295人増、シルバークマツチング数130件となったものの、いずれも目標値(646人増、150件)に達しなかったことから、「c-4.1」の評価となった。

「高齢者の就労支援と生きがいづくりであり、今後とも重要」、「土曜日チャレンジスクールや放課後チャレンジスクール等の事業との連携によるシナジー効果が生み出されるのではないか」などの意見がある一方で、「社会情勢の影響もある事業なので、いかに関係機関との連携を実現できるかが鍵ではないか」などの意見があった。

「配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します」については、「b-6.9」の評価であり、既に平成22年6月から、配食サービスを週4回から5回に拡充している。

「今後、ますます必要性が高くなることから、ボランティアなど人材の確保が課題である」、「配食サービスは、安否確認や虐待など問題事例の発見、災害時要援護者の把握などと、その周辺にある課題とつなぐための重要な施策と認識している」などの意見があった。

「高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します」については、「b-7.0」の評価であり、既に平成22年5月から協賛店の申込受付を開始し、9月から制度を実施している。

「高齢者を大切にできる環境をさらに広げていくべきである」、「商店街や地域の活性化のためにも、加盟店舗を増加させることは必要」との意見がある一方で、「協賛店へのメリット等、ていねいに取り組む必要がある」、「実施するのであれば、しっかりPRをして、多くの人に認識して欲しい」などの意見があった。

4	高齢者
---	-----

No	項 目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメ ン ト	A	B	C	コメ ン ト
31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)		b-7	b-7.0	・地域包括支援センターの開設、相談員の増員、年中無休化の準備及び体制強化に向けた事業者への説明会を実施したことから、工程表のとおり進捗したと判断した。	5	7	0	・介護者及び介護支援者への精神的ケアは引き続き重要であり、お互いの情報交換、コミュニケーションが可能な仕組みづくりが必要と考える。 ・地域包括支援センターを通じてのネットワークを広げることは、高齢社会者のインフラともいうべきものである。
	事業者説明会の開催	説明会2回開催							
32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)		b-7	b-6.9	・H22年6月からの配食サービス週5日実施のための関係団体との協議を行ったので、工程表のとおり進捗したと判断した。	5	7	0	・配食サービスは、安否確認や虐待など問題事例の発見、災害時要援護者の把握など、周辺にある課題をつなぐための重要な施策である。 ・今後、ますます必要性が増すことから継続的な配食ボランティアの確保が必要である。
	関係団体との協議	目標どおり進捗							
33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)		c-4	c-4.3	・高齢者サロンの実施が予定の30地区に届かず27地区であったため、進捗に遅れがあると判断した。	3	9	0	・団塊世代の高齢者への仲間入りを迎え、特に男性の一人暮らしの閉じこもり対策は喫緊の課題である。 ・遊休施設、既存ストックの有効活用策として関連各課と協力し積極的に推進することは意義がある。
	高齢者サロン								
	-1	高齢者サロンの実施地区30地区							
-2	介護者サロン		a-9	a-8.9	・介護者サロンの実施が予定の3か所を上回る11か所で実施したことから、目標を上回ったと判断した。	6	6	0	・潜在的なニーズの存在が、数値目標以上の実施を可能にしたのではないかと考えられ、それだけ重要度の高い施策である。 ・介護する側の心のよりどころがあれば、介護される側の喜びにつながる、素晴らしいことだと思ふ。
	介護者サロン3か所で実施								
34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)		c-4	c-4.1	・会員数の拡大が目標の半分以下であり、また、マッチング件数も目標に到達しなかったため、進捗に遅れがあると判断した。 ・目標達成に至らなかった原因を検証する視点が欠けている。	3	8	1	・働く場を増やし、高齢者が当たり前のように就労できる場を提供することは今後も必要である。 ・組合員であるシニア同士での新たなビジネス展開というのも市場を活性化させる可能性がある。
	会員数の拡大646人 マッチング件数150件	会員数295人 マッチング件数130件							
35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)		b-6	b-5.8	・定員増、学科新設準備等を行ったので、おおむね予定どおり進捗したと判断した。ただし、大学院卒業生のシルバーバンクへの登録者数が50名の予定が10名となった点は減点要素とした。	2	8	1	・高齢社会を迎え、各人が幸せを感じ充実した日々を感じるためにも、学びの場を提供することは必要であるが、次世代へシルバー世代の知識と活力を活かせるような学びの場とすることが課題である。
	定員拡大・福祉科新設準備 シルバーバンク登録者50名	目標どおり進捗 シルバーバンク登録者10名							

No	項 目		達成度			重要度			
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コ メ ン ト	A	B	C	コ メ ン ト
36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)		b-7	b-7.0	・協賛店の募集のための準備を行ったので予定どおりに進捗したと判断した。	2	7	3	・高齢者を大切にする環境を更に広げていくべきである。 ・ゆとりのある高齢者より、先の展望が見えにくく年金需給も危うい若い世代の応援も必要である。
	協賛店の募集準備	目標どおり進捗							

5 健康・安全・安心

総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-7.1	26.0%	65.2%	8.8%

健康づくりのために「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツできる場と機会を増やすなど、日本一健康で元気なまちづくりと、危機管理能力の高いまちづくりを目指すとした「健康・安全・安心」の17事業の総合達成度は、全10分野の中で2番目に高い「b-7.1」の評価となった。

重要度評価については、全般的にはB評価が65.2%と高く、平均的な評価であったが、「万全な危機管理体制を構築します」の7事業については、C評価がほとんどなかったのが特徴であった。

この分野において最高得点を得た事業は、「介護予防」と「地域防犯ステーション」などの増設と自主防犯パトロールの促進」であり、ともに「a-8.8」の評価であった。

「介護予防」については、介護予防一般高齢者施策事業の平成21年度目標数12,000人に対し大幅に上回る17,481人の参加者を得たことから高い評価となった。

「高齢者本人のクオリティ・オブ・ライフの維持と医療費抑制の観点から重要であり、予防のために積極的に努力して効果を出したことを高く評価した」との意見がある一方で、「事業趣旨から見て重視すべきは特定高齢者の方」などの意見もあった。

また、「地域防犯ステーション」については、平成21年度自主防犯活動団体数の6団体増の目標に対し、27団体増と大幅に増加したことから高い評価となった。

「団体数の増加だけでなく、活動継続のための啓発活動も必要」、「地域防犯活動を安全面だけでなく、そこで住む人々の心の豊かさにつながるものにしてもらいたい」などの意見があった。

得点が最低となった事業は、「防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築」であり、防災士の養成が目標を上回る一方で、避難場所運営委員会の設置数が平成21年度の19か所設置という目標に対し5か所の設置にとどまったことから、「c-4.8」という低い評価となった。

「自主的な防災活動は、災害初期の段階での被害拡大を阻止するためにも重要である」、「防災力は地域力そのもの、危機管理について市民のコミットメントの涵養は中でも重要」などの意見があった。

多目的広場整備方針の決定など「遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します」の6事業については、1事業を除き「b-7.0」とおおむね順調に推移しているとの評価であったが、重要度のA評価がほとんどなかったのが特徴である。

なお、「身近な施設にも開放の余地がある。それらにも目を向けて積極的な施策としてもらいたい」、「候補地選定過程に住民参加がどのようにされたか、市民参加過程の明確化を期待する」、「今後、更なる少子化が進むことを考えると、学校施設の有効活用を考えることが大変重要である」などの意見があった。

5 健康・安全・安心

No	項 目		達成度		コ メ ン ト	重要度			コ メ ン ト
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価		A	B	C	
37	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～（4年以内）				<ul style="list-style-type: none"> ・「食と運動」をテーマにした健康づくり公開講座の開催など、工程表どおりの進捗と判断した。 ・ヘルスプラン21の個々の取組内容が、実際に健康寿命の延伸に資する効果があるのか検証が必要である。 	2	8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する予防的な取組は、市民の長期的な生活の質を高めるとともに、今後、自治体のさまざまな面での財政的な負担削減効果が期待できる。 ・学校も取り込み、小・中・高校生から食の大切さを理解すれば、親になった時に役に立つ。
	-1	食生活・運動	ヘルスプラン21の推進	目標どおり進捗					
-2	介護予防				<ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者施策事業の参加者が事業計画の12,000人を大きく上回る17,481人に達した点について、目標を上回っていると判断した。 	4	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の大幅な増加がニーズを物語っている。 ・個人の状態を診断・選別してメニューを大規模に提供することは行政でしかできない。どのようなメニューが効果的かは絶えず研究と検証が必要である。
		一般高齢者施策事業	目標12,000人参加	17,481人参加					
38	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。（4年以内）				<ul style="list-style-type: none"> ・未利用地を活用したスポーツもできる多目的広場を整備するための研究会を設置するなど、H21年度の数値目標等のおり進捗したと判断した。 ・座談会の開催の計画・実績対比の表記がないため加減点の判断はできない。 	1	9	2	<ul style="list-style-type: none"> ・全市的にスポーツのできる施設の地理的な分布を把握しながら、地域ごとにバランス良く、集中する地域においては過大投資をすることなく、身近にスポーツに親しむ環境を整備することが肝要である。 ・長期的なスパンで、良いプランニングをお願いする。
	-1	多目的広場整備方針の決定	研究会の設置	目標どおり進捗					
-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放				<ul style="list-style-type: none"> ・公園利用の現況調査が終了し、工程表どおりの進捗と判断した。 ・個人利用への開放を前提にして次年度以降も事業継続していることから、予定どおりと判断した。 	1	8	3	<ul style="list-style-type: none"> ・市民へのスポーツの普及促進やイベントに欠かさない場所になり、市民の健康や地域の活性化につながる。 ・使い勝手の良いものになるよう期待する。
		現況調査・条例改正の必要性の検討	目標どおり進捗	b-7					
-3	民有地を活用した多目的広場の整備				<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換プラットフォームの掲載内容の検討など、工程表どおり進捗したと判断した。 ・市に存在している各施設を調査し、候補地の絞り込みをしたことから、工程表どおり進捗したと判断した。 	0	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な施設にも開放の余地はある。それらにも目を向けて積極的な施策としてもらいたい。 ・この取組がスポーツ条例を具体的なものにしていくと考えられる。
		情報交換プラットフォームの構築を検討	目標どおり進捗	b-7					
-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備				<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツふれあい広場の候補地の絞り込みなど、H21年度の数値目標等のおり進捗したと判断した。 	0	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃は、野球等ができる広場は、取り合いになるほど人気があった。子どもたちが気軽にスポーツができる環境を整えることは重要である。 ・そもそも、都市公園、身近な公園に禁止事項が多すぎる。
		調査検討	目標どおり進捗	b-7					

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント			コメント	
38	-5	大学との連携による多目的広場の整備	b-7	b-7.0	・大学グラウンドの調査・大学との調整など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。	0	10	2	・安全面や有効活用、開かれた学校等々、さまざまな視点からの検討が必要ではないか。 ・今後、更なる少子化が進むことを考えると、学校施設の有効活用を考えると、大変重要である。
		グラウンドの調査・大学との調整							
-6		農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	b-7	b-7.0	・農業施設内での整備実施手法の検討や事例調査など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。	0	10	2	・施設整備だけでなく、利用規程変更で対応しようとする方向は、施設マネジメントや利用者調整ができれば、効果的な方法である。 ・独立法人の大学より、市有施設人の目的外使用の方が実現の可能性が高いのではないかと。
		農業施設内での整備実施手法と事例調査							
39	万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)								
-1		総合防災情報システムの構築	b-7	b-7.0	・システム導入の検討に着手するなど、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・構築済や整備中の指定都市も多く、積極的に進めてほしい。	7	5	0	・技術革新が早い領域であり、庁内での検討のみで十分といえるのかやや疑問。
		システム導入検討							
-2		危機事案発生時の初動体制の確保	b-7	b-7.0	・宿日直体制の整備と、参集システムの構築・運用を工程表どおり実施した。 ・対策本部に近い場所に住まわせる職員が2名であることなど、緊急対応のためには更に充実すべき。	8	4	0	・危機事案はいつ起きるか分からないので、システム運用のための指導・訓練への資源投入は優先度を上げるべき。 ・地域生活の安全性を確保するためにも、災害初動体制づくりが重要。
		宿日直体制の整備							
-3		防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	c-5	c-4.8	・行政側が地域へ働きかけて組織化する要素が大きい避難所運営委員会の組織化が残念ながら目標よりも大きく遅れてしまった。	6	6	0	・防災力は地域力そのものとも言われる。危機管理について、市民のコミットメントの涵養は重要である。 ・地域への継続的な働きかけが必要で、そのためのノウハウの蓄積も課題ではないか。
		避難場所運営委員会設置(目標19か所)							
-4		災害時要援護者への支援	b-7	b-6.8	・予定どおり、高齢単身世帯・高齢者世帯の名簿が作成、配布された。 ・交付率のバラつきはどのように解消していくのが検討が必要である。	7	5	0	・個人情報の取扱いについて理解されることが重要。 ・自主防災組織への「要請」を行って”終わり”では完遂できない。継続的なメンテナンスの努力が必要。
		災害時要援護者(高齢者)名簿配布・更新							
-5		マンホールトイレの整備	b-7	b-7.1	・10校に設置したことで目標どおりの設置箇所と判断した。 ・数値目標60基を上回る64基を整備した。	2	10	0	・災害時のトイレと水はなくてはならないもの。定期的なメンテナンスを含め、有意義な整備を望む。 ・市民に対しての告知、広報等積極的に行う必要がある。
		10校60基整備							

No	項目		達成度			重要度			
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
39	新型インフルエンザ対策	行動計画等改定 抗ウイルス薬の計画的備蓄 目標どおり進捗	b-7	b-7.2	・工程表どおりに行動計画の改訂や抗インフルエンザウイルス薬の備蓄が進められていると判断した。	7	5	0	・被害を最小限にとどめ、医療機関を円滑に機能させるための重要な施策である。 ・新たな防災備蓄の要素であり、行政の責任が大きく期待される。
	-6								
-7	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	自主防犯活動団体設置（目標6団体） 27団体設置	a-9	a-8.8	・市民防犯活動団体を地域協力を得て予定数を上回る実績をあげたことを評価した。	1	10	1	・廃止交番の活用は、県警との調整が必要と思われるが、行政資産の有効活用の視点からも努力を期待したい。 ・地域防犯活動を安全面だけでなく、住む人々の心の豊かさにつながるものにしていてもらいたい。
	-7								
40	民間住宅の耐震化補助事業を拡大します。（すぐ）	耐震化補助事業の見直し 目標どおり進捗	b-7	b-7.0	・補助事業の見直し（対象拡大、受給要件緩和等）の実施など、工程表どおり進捗したと判断した。	5	6	1	・制度のPRが、まだ浸透していないように感じる。 ・耐震対策は必要なことだが、原則は個人責任によるものとも考えられる。行政が援助をしてまで実施することの合理性をそれぞれの市民が考えることが必要。
41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。（すぐ）	市独自策の検討・継続 目標どおり進捗	b-7	b-7.0	・工程表どおりに市独自の負担軽減策を継続していると判断した。	2	10	0	・財政的な制約の範囲内という条件は付けざるを得ないが、自立生活の権利を守るための社会基盤整備は維持されるべきである。 ・障害者が安心して暮らせる制度設計が必要である。

6 環境・まちづくり

総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6.7	20.2%	73.3%	6.5%

地球温暖化防止対策の推進、身近な緑を増やすまちづくり及び自然の中で市民が憩える場所を増やすまちづくりなど、持続可能な社会づくりを目指す「環境・まちづくり」の25事業の総合達成度については、「b-6.7」の評価となっている。

重要度評価については、全10分野の中で、A評価の割合が最も低かった。

この分野において最高得点を得た事業は、「都市公園の整備」であり、平成21年度の数値目標である2公園を上回る5公園を整備し、身近な公園の不足する地域19.35%を18.3%にしたことから、「a-8.9」となった。

「防災面での計画と連動しつつ、財政制約を見ながらの計画的な実施を期待したい」との意見がある一方で、「もっと目標を高くしても良いのではないかと感じた。気軽に憩える場所がもっと増えてほしい」などの意見もあった。

得点が最低となった事業は、「新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します」と「暮らしの道路・スマイルロードの整備」であり、ともに「c-4.0」の評価であった。

「新規建設事業の1%を文化・芸術のまちづくりに配分」については、文化・芸術まちづくり創造事業検討委員会の委員選定が遅れ、検討にも至らなかったことから低い評価となった。

「まちの魅力づくりとして大変重要であり、来るべき時に備え、検討は続ける必要がある」との意見がある一方で、「大切な視点だが経済状況に左右されやすい分野でもある。継続していくために、何のための文化・芸術事業か、目的を明確にして欲しい」などの意見もあった。

また、「暮らしの道路・スマイルロードの整備」については、平成21年度の数値目標である生活道路120件を下回る109件の整備であったことから低い評価であったが、着工件数では目標に達しており、「着工件数で評価を行うべきである」との意見もあった。

「民間建築物の緑化」については、平成21年度の数値目標である200㎡を上回る1,210㎡を緑化できたことから高い評価となった。

「ヒートアイランド対策に加えて、省エネルギー対策としての効果も期待される」との意見がある一方で、「屋上緑化は効果として期待できない」との意見もあった。

「市内照明のLED化率全国1位を目指します」については、さいたま新都心駅及び街路灯のLED化が、予定照度を得られたことから、おおむね順調に推移しており、「コスト及びCO2の削減につながる重要な事業である」、「器具の種類や価格も年々改良とコストダウンが進んでおり、あわてて導入するのはメリット・デメリット両面がある。慎重に対応していくべきと考える」などの意見もあった。

「『E-KIZUNA Project』などの実施により、次世代自動車の普及を促進します」については、導入補助金の実施や公用車への率先導入など、順調に進んだことにより「b-7.4」の評価となったが、「環境問題は点ではなく面で考えていかなければならない取組なので、今後の取組に期待」、「次世代車のマジョリティを見極め、無駄のない導入を望みます」などの意見があった。

6 環境・まちづくり

No	項目		達成度			重要度			
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> さいたま新都心駅のLED化については、当初見積りよりも少ない設置数で必要な照度が確保されたため、加点評価した。 さいたま新都心駅のLED化のために、現行方式より4年間に限ってみれば2億円強多くかかる。CO2削減目的でも、より多くの費用がかかることの合理性が説明されていない。 街路灯のLED化はH21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。 	2	8	2	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小さな交差点での街路灯が明るくなり、省エネにもつながり、今後も期待。 器具の種類や価格も、改良とコストダウンが進んでおり、導入する場合は慎重に対応すべき。 コスト及びCO2削減につながる重要な施策。
	街路灯LED化(目標1,000灯)	1,091灯LED化							
43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)		c-4	c-4.5	<ul style="list-style-type: none"> 市立小・中学校への太陽光発電設備設置に遅れがある。 小・中学校への設置の遅れは、授業への影響を考慮した年度またぎ処理であり、遅延の合理的な説明があるため、ほぼ工程とおりの進捗と判断できる部分もある。 今後の環境エネルギーの活用に取り組んでいる点は評価できる。 	2	9	1	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷を減らすクリーンなエネルギーの供給源として太陽電池の利用は一層促進するべき。 これらの電力の活用が今後の支出にどのようになるか興味がある。 財政的な持続可能性も考えて運用されることが求められる。
	市立小・中学校への設置(目標4施設)	設置1施設							
44	「E=KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(すぐ)		b-8	b-7.4	<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動車導入補助の実施など、H21年度の数値目標等について、ほぼ工程表とおりに進捗していると判断した。 E-KIZUNAサミットの早期開催に向けた準備を評価した。 	3	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 推進も大切だが、費用対効果について慎重に進めていただきたい。維持費用ランニングコストも重要。 次世代車のマジョリティを見極め、無駄のない導入を望む。
	次世代自動車導入補助(天然ガス・HV車対象)	目標どおり進捗							
45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。(すぐ)		b-7	b-6.8	<ul style="list-style-type: none"> 白紙撤回の予定は変更なしとした上で、代替施設の検討を重ねている実績により、H21年度の数値目標等のおおりに進捗したと判断した。 工程表とおりに、決定が行われなかったことはマイナス材料ではあるものの、経済環境の悪化等を考慮すると、やむを得ないと判断した。 	2	7	2	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢を踏まえ、長期的視点に立ち、シナジー効果を考えた導入機能を決定して欲しい。 市民にとって、本当に必要とされる導入機能を定めて欲しい。
	白紙撤回・新たな導入機能の決定	目標どおり進捗							
46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)		b-8	b-7.7	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体との調整を図り、コミュニティバス路線の検討をしており、工程表とおりに進捗したと評価した。 路線の検討には、住民組織が主体の計画立案を可能とすることから、加点要素とした。 	5	5	2	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の充実は、環境や高齢化など、さまざまな面から考えて重要である。 住民意見がどこまで正当性の根拠として有効なのか疑問。独自のバス路線を運用することで、どのようなメリットが図れるのかを周知すべきである。
	検討委員会の設置	目標どおり進捗							
47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)		c-4	c-4.0	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会が年度内に設置できていないことで減点要素と判断した。 委員の選定、文化・芸術事業についての検討が開始に至っていない点を減点要素と判断し、減点した。 	2	6	3	<ul style="list-style-type: none"> 大切な視点だが、経済状況に左右されやすい分野でもある。継続していくために、何のための文化・芸術事業か、目的を明確にして欲しい。 文化芸術については、各個人の感性が異なるため、費用だけで判断するのは難しいと思う。
	検討委員会の設置	設置に向けて要綱を制定							

No	項 目		達成度		重要度								
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コ メ ン ト			コ メ ン ト					
					A	B	C						
48	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)				<p>・目標の3公園が4公園整備されたので、評価した。</p> <p>・箇所数が予定を上回り、市民協働管理に向けた検討も並行して進めていることを評価した。</p>		<p>・芝生の維持・管理にどの程度の時間と労力、予算が必要か検討すべき。</p> <p>・ペットと利用する方々のマナーなど、管理について考える必要がある。</p> <p>・管理については、地域市民を巻き込むことも検討してはどうか。</p>						
	-1	公園の芝生化	a-9	a-8.5									
		芝生整備(目標3公園)	4公園芝生化										
	-2	学校の芝生化	b-7	b-6.9				<p>・整備施設の数からH21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。</p> <p>・大宮小の芝生撤去をどう捉えるか。</p>		<p>・児童や生徒の情操教育のためにも緑あふれる学校施設づくりは有効。市民にも開放された校庭とするならばもっと有意義だが、公園の芝生化に比べれば、閉鎖的な空間整備のため重要度は低い。</p> <p>・芝生は、導入以上に維持が難しいので、管理の検討も早急に進める必要がある。</p>			
		校庭等芝生化(目標1校)	目標どおり進捗										
	-3	保育園の芝生化	b-7	b-7.0							<p>・3園の芝生化を実施し、工程表どおりに進捗したと判断した。</p>		<p>・土と触れ合う機会が少なくなっている都市部において乳幼児の段階から土に触れる機会を設ける施策は有効である。市民・地域活動にも開放してボランティアによる整備園庭とするならば更に有意義であると考え。</p>
		園庭等芝生化3園	目標どおり進捗										
-4	学校の緑のカーテン	b-7	b-7.0	<p>・新たに6校で緑のカーテンを実施するなど、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。</p> <p>・教職員による設置作業については、過度の負担を避けるために、地域ボランティア等の検討を望む。</p>		<p>・低額の整備費用で、緑を創出できることに加え、蒸散作用による空調効果がある。理科の教材としても有効活用できる壁面緑化は、環境教育としても有益と考える。</p> <p>・食育にもつながる大切な事業である。</p>							
	設置(目標小学校6校)	目標どおり進捗											
-5	公共施設・家庭の緑のカーテン	b-7	b-7.0				<p>・緑のカーテン支援方法を検討したことから、工程表どおり進捗したと判断した。</p> <p>・緑のカーテン事業を11箇所の公共施設で実施したことから、工程表どおり進捗したと判断した。</p>						
	公共施設10施設実施	10区役所、議会棟で実施											
-6	公共施設の緑化	b-7	b-7.0					<p>・公共施設緑化マニュアルの改訂など、工程表どおり進捗したと判断した。</p> <p>・公共施設の屋上緑化の実施など、工程表どおり進捗したと判断した。</p>		<p>・市全体に広く推し進めるイメージ戦略として行って、効果を上げて欲しい。</p> <p>・緑化、ヒートアイランド対策、省エネルギー対策としての効果が期待される。</p>			
	公共施設緑化マニュアルの改訂	目標どおり進捗											

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
48	民間建築物の緑化		a-9	a-8.8	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を大きく上回る1210㎡の建築物の緑化が進んだことを評価した。 ・建築物緑化助成事業の制度拡充など、工程表どおり進捗したと判断した。 	0	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化、ヒートアイランド対策に加えて、省エネルギー対策としての効果も期待される。ただし、この施策による緑の創出分と宅地開発による喪失分とのバランスシートは、常に計測していく必要がある。 ・市民の周知度と利用件数を増やす工夫が肝心。
	助成事業による緑化創出 (目標200㎡)	緑化創出 1,210㎡							
-8	花と緑でいっぱい・区の花の制定		b-7	b-6.9	<ul style="list-style-type: none"> ・花と緑のまちづくり推進事業の仕組みづくりなど、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・区民会議で区の花の制定を行っているが、取組そのものが市民への周知ができていないと感じる。 ・全市的に取り組むなかで、各区が区の花を決めるというシンボル性が見えない。 	0	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・まちを緑や花でいっぱいにすることで、心豊かな生活を感じることができる。地域住民に働きかけ、住民自らが、積極的に関与できるような施策として欲しい。 ・市民の自主性を大切にする事業展開を希望する。
	花と緑のまちづくり推進事業の仕組みづくり	目標どおり進捗							
49	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)				<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境調査の実施など、見沼基本計画の策定準備作業が工程表どおり進捗したと判断した。 	6	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な遺産である見沼たんぼや荒川を、身近に感じてもらうことに加え、環境保全教育の教材として活用することは、有意義な施策と思う。 ・見沼周辺は市民にとって、とても大切な資源であり、さまざまな観点から保全・活用を望む。
-1	見沼基本計画の策定		b-7	b-6.9					
	期基本計画の策定調査	目標どおり進捗							
-2	歴史的遺産・自然環境の活用		b-7	b-7.0					
	ワークショップによる休憩施設設置場所等の検討	目標どおり進捗							
-3	教育ファームの実施		b-7	b-7.0					
	小12校、中5校で実施	目標どおり進捗							
-4	市民農園の整備		c-4	c-4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・閉園の理由は、相続が発生したことによるもの。 ・土地所有者にもメリットがあり、これをPRすればもう少し新たな開設につながれるのではないかと。 	1	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく宅地化による閉園が相次ぐということであれば、協力していただける農業者の負担も考慮した制度構築、運用を期待したい。 ・既存農園の維持に向けた取組が必要。
	市内での開設(目標8か所)	開設7か所(既存4か所閉園)							

No	項 目		達成度			重要度			
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コ メ ン ト	A	B	C	コ メ ン ト
49	東宮下調整池の広場整備		b-7	b-7.0	・用地買収・実施設計の実施など、工程表どおり進捗したと判断した。	0	11	0	・遊水機能の優先が重要。親水機能については、見沼等の歴史的資源の保全活用が先と考える。 ・環境保全のためにも、一定程度の用地確保は必要と理解。
	用地買収・実施設計	目標どおり進捗							
-6	高沼用水路の整備		b-7	b-7.0	・地元の高沼ネットワーク会議と調整を図りながら、事業計画の策定をしたことから、工程表のとおり進捗したと判断した。	1	10	1	・整備した結果、さいたま市の魅力の一つとなることを望む。 ・全体の調和を意識した場所になれば良い。
	実施設計準備	目標どおり進捗							
50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)		b-7	b-7.0	・高度地区指定のあり方を検討し、工程表どおり進捗したと判断した。	5	7	0	・住んでいる住民ニーズを的確に把握することが大切。住民密着型の行政施策として充実して欲しい。 ・地区によっては遅きに失した感もある。
	高度地区指定のあり方の検討	目標どおり進捗							
51	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)		a-9	a-8.9	・数値目標の2公園を大きく上回る5公園を整備できたことを評価した。 ・身近な公園の整備箇所の目標値の上積みをしたことを評価した。	6	5	0	・防災・復興面での計画と連動しつつ、財政制約を見ながらの計画的な実施を期待したい。 ・もっと目標を高くしても良いのではないかと感じた。
	都市公園の整備								
	-1	身近な公園整備(目標2か所)							
-2	暮らしの道路・スマイルロードの整備		c-4	c-4.0	・数値目標120件を下回る109件の整備であったことを評価した。 ・工事の完了件数で評価しているため未達成になっているが、実際には目標件数分を着工しており、着工件数で評価した方が、市民は分かりやすいと考える。しかし、数値目標は未達成であると判断した。	2	10	0	・都市の安全を図るためにも、計画的実施を求める。 ・地域コミュニティの活性化、住みやすいまちづくりを目指して良好な住環境整備を期待する。
	120件整備	整備着工109件							
-3	下水道の整備		b-7	b-7.0	・下水道普及率は86.6%となっており、工程表どおり進捗したと評価した。	4	7	0	・汚水処理の普及率アップとともに、雨水・汚水分流処理への移行整備も重要と考える。 ・もっと目標を高く掲げてほしいと思う。
	普及率86.6%	目標どおり進捗							
52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)		c-4	c-4.1	・都市計画道路の見直し指針案が素案のままであり、未策定であると判断した。	4	8	0	・利害関係者との調整に困難が予想されるが、都市の骨格形成を決める施策であり、財政面でも重要な案件である。 ・今後の社会情勢を見越した計画の見直しは重要である。
	指針案の策定	未策定							

7 経済・雇用

総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-6.9	25.8%	70.0%	4.2%

地域の特性にあった独自のきめ細かな雇用・経済対策、未来を見据えた新しい産業づくりなどを旨とする「経済・雇用」の20事業の総合達成度は、「b-6.9」の評価となった。

重要度評価については、全10分野の中で、C評価の割合が最も低かった。

この分野において、最高得点を得た事業は、「マッチング事業」であり、平成21年5月に、ふるさとハローワークを設置し、就職支援事業による支援者数が、平成20年度の63人から、平成21年度323人へと大幅に増加したことから、「a-8.5」の評価となった。

「若者から子育て世代、そして中高年までの再就職支援セミナーなどにも充実をお願いする。キャリアアップのための支援、スキルアップ講座等の実施など、求職者への地元就職を実施できることは、とても良いこと」との意見がある一方で、「取組については評価できるが、その結果として何人が就職できたのかを明示すべき」などの意見があった。

得点が最低となった事業は、「介護福祉士資格取得支援」であり、理由として国の交付金の遅れが原因との説明もあったものの、平成21年度の数値目標である筆記試験対策講座及び実技試験対策介護技術講習の受講者数280人を大きく下回る144人であったことから、「c-4.0」との評価となった。

「高齢化社会の到来により、介護福祉士は更なる需要がある。資格取得支援により、必要な施設に必要な数が配置されて、多くの市民が明るく元気に過ごせるさいたま市にして欲しい」との意見がある一方で、「国レベルの制度設計などを通して改善していかなければ、対症療法に自治体が努力を重ねても、根本的な解決は難しい」、「重要なのは、資格取得支援より資格保有者の待遇改善である」などの意見があった。

「ワーキングプアを増やさない、部局横断的な『自立生活支援対策チーム』を設置します」の「セーフティネットの構築」については、自立生活支援相談窓口を平成22年度に全10区に設置する準備や生活保護受給者のうち174人を就労等へつなげるなど目標を上回ったことから、「b-7.7」と高い評価となった。

「生活保護受給者の増加を食い止めるには、今後も目標数値を上回る体制強化が望まれる」、「社会的な緊急課題への対応を基礎自治体で、どのように図っていくか。社会的なセーフティネットの整備が求められる中、重要度も緊急度も高い」との意見があった一方で、「本当に困っている人とそうでない人、中には努力が足りないと感じる方もいるかもしれないが、さまざまな角度での支援を期待する」などの意見があった。

「戦略的企業誘致」については、企業誘致件数10件は、過去2年度と比較して少ないが、目標件数を達成したことから、「b-7.0」との評価となった。

「この分野の中では、重要度Aの割合が高く、市としての雇用増加、法人税などの税収増加などの効果が見込める重要な施策と考えられ、加速した事業展開が求められる。また、これと関連した事業として、『テクニカルブランド企業認証事業』、『産学連携によるイノベーション創出』、『ものづくり人材支援事業』、『ベンチャービジネス倍増プロジェクト』等についても更なる事業促進が図られるべきである」との意見があった。

No	項 目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コ メ ン ト			コ メ ン ト	
53	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)				<p>・生活保護受給者への就労支援で、H21年度の目標135人に対し、実績174人ということで目標を上回った。</p> <p>・自立生活支援を必要とする状況にある人の増加は、数値目標設定時より深刻度を深めていると見られる。危機感を持って取り組み続けてもらいたい。</p>	8	4	0	<p>・経済状況の厳しい中、このような個々への対応とともに、今後は雇用問題全体の改善につながるような、踏み込んだ事業を望む。</p> <p>・社会的な緊急課題への対応を基礎自治体でどのように図っていくか。社会的なセーフティネットの整備が求められる中、重要度も緊急度も高く施策展開を注視したい。</p>
	-1	セーフティネットの構築	b-8	b-7.7					
		生活保護受給者への就労支援	目標どおり進捗						
-2	ステップアップの取組		b-7	b-7.0	<p>・セミナー開催、キャリアコンサルティングの実施がH21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。</p> <p>・企業が必要とする人材についてのヒアリングや、キャリアコンサルティングの後追い調査を行えば、効果が上がるのではないかと。</p> <p>・工程表どおりの取組ではあるが、絶対数として少なすぎるのではないかと。</p>	5	7	0	<p>・セミナー後のフォローアップもお願いしたい。</p> <p>・重要度は高いと認識するが、効果的な対策が見えていないと考える。課題へのアプローチがキャリア・コンサルティングなのかどうか分からない。</p>
		就職支援セミナー・キャリアコンサルティングの実施							
54	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)				<p>・準備段階であるが、基本的にH21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。</p> <p>・ものづくりデータブックの作成・配布については、その効果を検証しながら内容の検討を進める必要がある。</p>	3	8	1	<p>・ネットワークづくりに関して強いリーダーシップを発揮して進めないとプロジェクトが実現できないのではないかと。今後に注目したい。</p> <p>・ものづくり企業（生産者）間のネットワークはすでに民間で長く取り組んでいる。行政がコーディネートすべきは、中小企業ではなかなかできない、市民（消費者）と生産者をつなぐ仕組みづくりではないかと。</p>
	-1	ものづくり企業支援事業	b-7	b-7.0					
		ものづくり企業の実態調査の実施	目標どおり進捗						
-2	テクニカルブランド企業認証事業		b-7	b-7.0	<p>・企業認証数、支援企業数など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。</p> <p>・企業のメリットとして、公的な信用力やブランドを与えるということで、実際に社員が自信を持つことができたり、学生が入社の興味を持つきっかけにつながっている。</p> <p>・会社が活性化し、雇用が増えることにより、税収の増加につながれば市のメリットになる。</p>	2	10	0	<p>・認証後の付加価値があまり感じられない。取得によるメリットを向上することが重要。</p> <p>・認証を受けた企業が、業界のリーダーとして技術開発、経営強化、人材育成などの「競争力向上支援」を実施することで、小さな企業の技術支援につなげることを目的とすることは、活性化のために良いこと。</p>
		9社を認証							
-3	戦略的企業誘致		b-7	b-7.0	<p>・企業誘致10件は、19、20年度に比べて少ないが、誘致している事実により予定どおり進捗したと判断した。</p> <p>・企業誘致目標数は達成しているが、どのような企業をターゲットとして誘致しようとしているのか明示されていない。</p>	7	5	0	<p>・地域経済活性化のためにも、迅速な対応、より多くの誘致が望まれる。</p> <p>・地域産業や地域活動の活性化のためにも、雇用先の創出を目的とした施策は必要。継続的にその地で活動できる誘致企業の選定などの課題はあるが、社会への貢献度などにも考慮し、社会活動企業として質の高い企業の誘致を希望する。</p>
		企業誘致活動を展開(目標10件)							

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
54	産学連携によるイノベーション創出		b-7	b-6.9	<ul style="list-style-type: none"> ・人材交流支援の実証実験3件実施など、H21年度の数値目標等のおりの進捗であるが、連携の範囲の設定に検討の余地があるのではない。 ・H21年度実績の産学連携事業相談件数423件、マッチング件数49件の数字が妥当なものかの判断に苦慮した。 ・企業間のマッチング支援による具体的な成果が把握できない。 	2	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市発の、新たな技術の誕生が楽しみである。 ・企業と大学、行政が、常に連携が取りやすい環境が必要だ。 ・大学や公的研究機関などにより、弱小企業の発展を目的として、商品技術・市場性の目利きサポートを行うことは、とても心強いと思う。
	人材交流支援の実証実験(目標3件)	目標どおり進捗							
55	新規就農者支援事業		c-5	c-5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数の目標値10人を上回る26人の実績があったため加点した。 ・一方、事業の柱となる実施方針策定のための協議会が未設置であり、事業展開としては好ましくない。 	3	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市は県内最大の農業都市であり、農業振興施策は重要。 ・誘致も含め、さまざまな方法の検討を望む。 ・都市型農業としてのあり方全体の問題と考える。税制等も含めた施策パッケージで考える必要がある。
	地産地消推進協議会を設置	未設置							
56	事業所内保育施設推進事業		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内保育所を2か所設置したことから予定どおりの進捗と判断したが、今後の更なる増加に期待する。 	4	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内保育所の充実、小さな子どもを持つ親にとっての雇用創出につながる。 ・安心して子育てと仕事を両立できる環境を広く普及させる必要がある。
	事業所内保育所整備補助実施	目標どおり進捗							
57	介護福祉士資格取得支援		c-4	c-4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験対策講座及び実技試験対策介護技術講習の受講者数が144人であり、事業計画の目標値である280人を大きく下回った点を厳しく評価した。 ・福祉職の資格を保有しても、十分な報酬の得られる職が保障されていない現状があり、介護報酬のみならず、地域包括支援センターの委託費やさいたま市独自の福祉施策にける専門職人件費の積算単価や配置人員の考え方も検討する必要がある。 	0	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の到来により、介護福祉士は更なる需要がある。必要な施設に必要な数が配置されて、たくさんの市民が明るく元気に過ごせるさいたま市として欲しい。 ・資格取得支援だけで終わらずに資格保有者の待遇改善による人材確保が必要である。
	講座受講者280人	受講者144人							
58	ホームヘルパー2級資格取得支援		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームヘルパー2級資格取得支援補助制度の要綱骨子を作成したことから、予定どおりに進捗したと判断した。 	0	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の定着を目指す施策のため、追跡調査を行い、定着率等の効果測定を実施する必要がある。 ・資格取得者を今後、更に増加させて雇用につなげる必要がある。
	資格取得支援補助制度実施(要綱骨子作成)	目標どおり進捗							
59	福祉介護人材の養成確保		b-8	b-7.4	<ul style="list-style-type: none"> ・国への要望活動を実施したことから工程表のとおり進捗したと判断した。 	1	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地方分権時代に、介護、福祉を主体的に担うのは基礎自治体であり、国への要望活動も達成目標を明確にして取り組む必要がある。 ・今後とも福祉・介護に関する情報をしっかり開示し多くの人に関心を持ってもらう必要がある。
	国への要望活動	目標どおり進捗							

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
54	ものづくり人材支援事業		b-7	b-7.0	・デュアルシステム・インターンシップの実施など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。	5	7	0	・技術の創造・継承は、さいたま市だけでなく、日本の未来に関わる重要な項目である。 ・優秀な人材が市内企業に就労するためにも、地元企業の魅力を伝えるためにも、若人を対象にした技術研修は、将来を考えるきっかけとなる。
	デュアルシステム・インターンシップの実施	目標どおり進捗							
-11	マッチング事業		a-9	a-8.5	・就労支援事業による支援者数が大幅に増加したため、加点評価した。 ・就労支援者数の定義は就労実現数（アウトカム値）ではなく、成果の大幅な向上といえるかは疑問。 ・就労支援者数の増加は評価できるが、実際に就労できたかが総合評価につながると考える。	5	7	0	・雇用の促進は、まちの活力に直結する。 ・求職者に対して、今後幅広く周知を行い、雇用の充実に努めて欲しい。 ・求職者への地元就職への支援策を実施できることはとても良いことである。
	就職支援（目標 前年実績 63人以上）	323人を支援							
55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。（4年以内）		b-7	b-7.0	・年間観光客数については、データの確定が年末になるため、見込みであるが、工程表どおり進捗したと判断した。 ・入込観光客数と市の政策的取組の因果関係は慎重に検証する必要がある。 ・「さいたま市ウォーカー」は、行政が作成したものとは思えないほど良くできている観光情報広報誌であるので、広範に配布し、さいたま市の観光を積極的にPRしていくべきである。	3	7	2	・観光資源は何かあるかと考えたとき、なかなか頭に浮かばないのが現状。市外から魅力を感じて来訪する施設がないのが残念。 ・魅力あるコンテンツは、多いに活用すべき。 ・スポーツコミッション創設では外部人材登用などの手法活用も必要と思われる。
	年間入込観光客数	2,256万人							
56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。（4年以内）		b-7	b-7.0	・平成21年度の数値目標等について、工程表では空白となっているが、取組については、創業ベンチャーサポートの支援の手法の確立とコミュニティビジネスの定義付けを予定どおり実施したとの説明があったので、予定どおり進捗したと判断した。 ・各種相談、アドバイザー派遣事業については、成果として表記してあるが、これまでの延長上であり、前倒しの事業ではない。	3	9	0	・市場を活性化させるために新たなビジネスの発掘が必要である。県外からも興味を持ってもらえば、さまざまな面での拡がりも見えてくる。 ・若者の起業への関心をもっと高めるべき。
	人材育成支援								
	ベンチャーサポート塾の創設の検討・調整	目標どおり進捗							
-2	創業環境支援		b-7	b-7.0	・インキュベーション事業の拡充について、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断したが、目標の設定方法に若干疑問を感じる。	3	8	1	・起業初期段階での支援は、会社が順調に機能するためにはありがたいことと考える。 ・人材の充実に努め、より効果的なサポート体制を確立していただきたい。
	インキュベーション事業の拡充	目標どおり進捗							

No	項目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
57	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (4年以内)				<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型事業提案モデル事業を2件採択したため、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・工程表どおりの進捗であるが、市の規模を想定すると、目標設定が控えめに過ぎるのではないか。 				<ul style="list-style-type: none"> ・全てを行政に頼るのではない地域主体のこういった活動は、コミュニティの活力向上につながると思う。 ・NPOによる非営利活動とコミュニティビジネスは、今後ボーダーレスになると思われ、その流れに対応できる柔軟な制度設計をお願いしたい。
	-1	コミュニティビジネス育成事業		b-7					
	地域密着型事業活動提案モデル事業(目標2件)	目標どおり進捗							
-2	コミュニティビジネス促進事業				<ul style="list-style-type: none"> ・H22年度実施予定の企業家セミナーを1年前倒しで実施した点を加点評価した。 ・H21年度の実績が当初の工程表を上回ったと判断するが、その結果、22、23年度の目標が21年度実績より少ないことになるのはいかがなものか。 				<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きPRを行い、認知度の向上に努めて欲しい。 ・今後の市の活性化にとって、起業やコミュニティビジネス等の活発な展開は、クリティカルな意味を持つと考える。
		専門家相談会の開催(目標年1回)	目標どおり進捗	b-8					
58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。 (4年以内)				<ul style="list-style-type: none"> ・創業者支援資金融資制度の拡充など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・融資制度の拡充を評価して加点評価した。 				<ul style="list-style-type: none"> ・経済情勢の良くない現在、既出のものづくり企業も含め、中小企業への融資やマッチング等のフォローは重要。 ・中小企業は、研究開発や新たな知見を見出すことが大企業に比べて不利である。研究や情報を得るためにも財源への支援が有効に活用されることを期待する。
		創業者支援資金融資制度の拡充	目標どおり進捗	b-8					
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。 (4年以内)				<ul style="list-style-type: none"> ・H22年度からのCSR活動認証制度の創設に向けた準備段階として、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 				<ul style="list-style-type: none"> ・CSR活動をしたくても余裕のない企業も多い。大げさなCSRでなくても良いという事を知らせるのも大事である。 ・企業活動が社会に影響を及ぼす範囲を多面的に考えるきっかけとして、CSR事業の提案は良い機会である。
		ホームページの作成・公表準備	目標どおり進捗	b-7					

8 地域間対立を越えて

総合達成度	重要度		
	A	B	C
b-7.0	44.4%	47.3%	8.3%

全員参加の“1つのさいたま市づくり”、地域に偏らない、しがらみのない「公平・公正・開かれた市政」の実現を目指す「地域間対立を越えて」分野の3事業については、いずれも「b-7.0」の評価であり、したがって総合達成度も「b-7.0」の評価となった。

重要度評価については、全10分野の中で、最もA評価の割合が高かった。

「大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します」については、大宮駅東口公共施設の再編についての検討、大門町2丁目中地区再開発の基本計画案の作成準備等工程表のと通りの進捗であり、平成22年5月には、大宮駅周辺地域戦略ビジョンを公表している。

「人が、つい足を運びたくなるような整備を期待する」、「社会情勢を踏まえ、フレキシブルかつスピーディーな対応が必要である」、「都市の顔を創る事業のため、課題に挙げられている官民協働の推進機関創設は当然のことであり、新たな時代に即したエリアマネジメント手法の開発を期待したい」などの意見があった。

「地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します」については、「沿線開発」や「運行計画の工夫」等により採算性を確保するため埼玉県と共同して検討を行うなど、工程表のと通りの進捗となっている。

「都市の骨格をつくる事業であり、沿線の住宅開発ニーズは当分は見込まれる」、「ニーズや経済性を勘案し、綿密な事業計画を推進していただきたい」との意見がある一方で、「採算性など慎重な検討を要し、政策判断によっては市の長期的な経営戦略に大きな影響を及ぼしうる政策」、「莫大な事業費のかかる事業です。引き続き、慎重な検討が必要と考えます」などの意見があった。

「市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します」については、庁内検討会議を3回開催し、各界、各層から幅広く意見を聞くための庁舎整備検討委員会を2回開催するなど、工程表のと通りの進捗となっている。

「手続きの透明性が重要であり、手間はかかるが、細やかな情報発信を求めたい」、「建替え移転等を勘案し、市民の利便性の検討も含め行ってほしい」などの意見がある一方で、「莫大な事業費のかかる事業であり、引き続き慎重な検討が必要である」、「既存ストックの有効活用という点においても熟考をお願いしたい」などの意見があった。

8 地域間対立を越えて

No	項 目		達成度		重要度				
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コ メ ン ト	A	B	C	コ メ ン ト
60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。 (4年以内)		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・大宮駅東口公共施設の再編に関する基本計画の策定に向け、検討を進めたので、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・氷川緑道西通線の土地評価後に一部用地を取得するなど、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 	7	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の顔をつくる事業のため、課題に挙げられている官民協働の推進機関創設は当然のことであり、新たな時代に即したエリアマネジメント手法の開発を期待する。 ・人が、つい足を運びたくなるような整備を期待する。
	大宮駅周辺地域戦略ビジョンの策定	目標どおり進捗							
61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。 (4年以内)		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画や沿線開発の検討など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと評価した。 	6	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・根本的な見直しを実施し、採算性を考えた上で計画の検討を行うべきと思う。 ・採算性など慎重な検討を要し、政策判断によっては、市の長期的な経営戦略に大きな影響を及ぼしうる政策。
	事業計画・沿線開発の検討	目標どおり進捗							
62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。 (4年以内)		b-7	b-7.0	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎整備検討委員会での検討など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと評価した。 ・しかし、今後は、市民の声だけでなく、専門家の意見も聴いていかないといけないのではないか。 ・事業自体が、「最終的に目指します」なので、年度ごとに細かく評価するような内容ではないのではないか。 	3	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・区のあり方検討をはじめ、業務内容等も考え、市庁舎建設について再検討すべきと考える。 ・手続きの透明性が重要であり、手間はかかるが、細やかな情報発信を求めたい。
	庁舎整備検討委員会の開催	目標どおり進捗							

7 評価を終えて（委員所感）

委員長 廣 瀬 克 哉

多様な市民が参加しての評価のため、さまざまな領域について、当事者であったり、その領域に強い関心を持たれていたりするメンバーがおられ、多角的な観点からの評価となった。政策の評価に市民がかかわるメリットを実感させられた。

他方で、個々の事務、事業単位で評価を行うことの限界を感じさせられる場面も少なくなかった。関連する複数の事務、事業が全体としてひとつの政策的な効果を目指している場合、個別の評価ではなく、総合的な評価が必要だが、それをどう実現していくかについては、今後の課題となった。次年度以降の評価に反映していければと考えている。

委員長職務代理 長 野 基

予算編成への一層の活用を目指す場合、予算編成が本格化する夏前へ前倒しでの評価実施が求められ、同時に実施期間の短縮も必要と思われれます。このためには倍増プランに明記されている重点項目へ評価対象を絞り込むといった選択が必要と考えます。

また、残念ながら事業所管部署との質疑では担当者による説明技術や態度に差異があったと感じております。市民評価委員会はパワーゲームの中での政治的評価を下す主体ではないのですから、「ご理解ください」と議会答弁のような「防御」をする必要はないのではないのでしょうか。

磯 田 和 男

7月より大量の倍増プラン2009資料をいただき、委員会当日の所管課からの説明を受けて、5つの行動宣言、7つの条例宣言、8つの分野、74項目で構成された139個別事業について具体的事業計画（工程表）の「進捗状況」「達成度」の評価をしてきました。

個別に事業の内容を見せていただければいただくほど清水市長の市政にかける想いがいっぱい詰まっていることがよくわかりました。

事業計画の進捗状況、達成度の評価をしていく中で事業内容の検証にまで至り、個別事業重要度をABCで表し、委員皆さんの想いがこめられていますので活かしていただきたいと思えます。

伊 藤 巖

1. 評価すべき項目が「看板（標題）」が主となっており、内容での評価をしていない。（厳選すべき）
2. 評価項目が多すぎる。市民が多岐分野にわたり、業務を把握かつ理解していないと評価ができない。
3. 他の関連する委員会での検討事項等との整合性について、実際チェックできているかどうか疑問である。
4. 行政の都合で評価を求められているのではないかと感じる。
5. 今後については、評価結果を踏まえ、結果の良否及び対策も講じるべきである。
6. 会議が多すぎる。（項目が多岐にわたっているからか？）

伊 藤 麻 美

長年さいたま市にお世話になりながら経済政策以外の事にあまり関心を持っていなかったのですが、今回多くの事を学ぶ良い経験をさせていただきまして、感謝しております。

さいたま市という大きな組織なだけに難しい課題も多いと思いますが、それぞれの担当部署の更なる情報の共有と活用により、簡素化できるものももっと見つかる気がしました。

市民にとっても企業にとっても魅力あるさいたま市であり続けるための力強いビジョンづくりを今後とも期待します。

猪 野 智 久

評価を行った一部の事業において、あらかじめ設定された目標値や取組内容に対する根拠や動機が不明瞭であったので、そういった事業に対しては不安を感じました。また進捗の有無に関らず、なぜ21年度は今の結果が得られたのかについて、もっと詳しく追求すべきだと思いました。徹底的な原因究明と改善点の洗い出しは、各事業に対して多くの市民が抱く疑問や不安を払拭し、納得と信頼を得ることができると思います。またそれは、次年度あるいはそれ以降に各事業へ取組む際の大きな糧となるはずです。なお、今回学生という立場で初めてこのような会に参加した訳ですが、市の職員の方々が一丸となって、一所懸命取組んでいる数々の事業について、他の多くの学生達にも知って欲しいと思いました。

栗原俊明

市民評価委員という大役を無事に終えることができ、達成感とともに安堵を感じております。今回の委員活動を通して、いかにもお役所的な点が見られた反面、市政運営の難しさの一部を垣間見ることができた気がしました。また自分自身、より深く市政について考えるきっかけになったと考えております。

初年度ということもあり、手探りの部分も多かったと思いますが、今期の活動が、来期以降に活かされることを願っております。委員の皆様、そして事務局を始め関係各者の皆様、ありがとうございました。

野崎博行

多くの項目に渡って評価をさせていただきました。自身としては全ての分野に精通している訳ではなく、評価に関していただきました資料のみで判断をさせていただくことになり、本当に適正な評価が下せたのか考える所もございしますが、自分自身では精一杯携わらせていただいたと確信しております。このような機会をいただき、改めてさいたま市民として、今後はより一層市政に対しての意識を高めなくてはと感じております。

資料に関しては、簡潔に、かつ分りやすくまとめていただいております、非常に分りやすく評価がスムーズに行えました。会議に関しては良い緊張感の中行えていたと思います。欠席が多く、担当の方々には大変御手数をおかけしてしまい申し訳なく思っております。

延原正弘

1. 評価すべき項目数が多すぎる。市長マニフェスト全てを評価するのではなく、的を絞り重点評価した方が、議論と評価を深めることができる。
2. 評価結果公表が12月中旬では遅すぎる。下半期が始まる前には終了させ、その年度の目標修正が可能なようにするべき。これは評価対象数とも連動する。
3. 正確な評価のためには、明確に目標が示される必要がある。約2割は目標そのものを提示せずに自己評価している。これは本来評価対象外となるもの。
4. 目標は固定的なものではなく、情勢の変化に伴い柔軟に変更されるべきもの。その痕跡がほとんどないこと自体が問題だという認識に欠けている。
5. このプランの中に増収に関わる項目がわずかしかないことは大きな欠点である。いかなる時も増収方策を主たる項目として持つべき。

橋 本 克 己

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員としてさまざまな視点から学ぶことができました。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

今日のさいたま市が抱える諸課題に対して、その課題を解消する方法は行政の施策だけにあるのではなく、まして市民の中にあるのでもなく、課題を解消する方法は、「お互いの関わり方の中に存在している」のではないかと考えています。どちらかが一方的に変われば解決するわけではないかもしれません。市民がどのようにこれから関わっていくのか、という視点と行政が従来ある関係性から脱却し、条件を明らかにして施策を取り組んでいく過程をオープンできるのか、まずは一步踏み出した事に今回は大きな意義があったのではないかと思います。

町 田 直 典

「子どもが輝く”絆”で結ばれたまち」をスローガンにした施策に多くの期待を抱きながらもその実現性においては不安を感じながらの評価作業でした。あまりにも多くの事業に対して、市民の声がどの程度、反映された事業なのか、その評価の進め方や評価そのものについては、今後改善すべき点多々あると感じています。特に市民の声や要望がどのように活かされているのかが不透明であり、読み解くことが困難でした。一方で、コミュニティーの希薄性が課題となっている現代にあって、人のつながりを重視する施策には共感する部分も多く、実質的に有効な施策として今後の充実度に期待します。

個人的には、不勉強な点多々あり、学びながらの評価作業でした。「次世代を担う子どもたちの健全な成長」は人と人のつながりにより育まれるものだ実感しています。その点で、とかく行政内部での施策評価になりがちな、計画を広く市民に公開し世にさらしている点は大いに評価すべき内容だと感じました。

今後もより一層の改善施策へとつなげていていただきたいと願います。市民意見を取り入れ、住民意識調査を最大限に尊重しようとするさいたま市の姿勢をありがたく思うとともに、さいたま市民であることに喜びを持たれた機会でした。

最後に評価の取りまとめや議事進行・委員会の運営面など多大な事務作業をしていただいた、さいたま市職員に感謝申し上げます。ありがとうございました。

三 浦 匡 史

今回の市民評価委員の経験は、私にとって、市長選挙の時点ではマニフェストに関心を寄せてはいるものの、その後の実施状況までなかなか細かく後追いできていないということを実感することのできる貴重な機会となりました。

個別事業の評価を検討する中で、そもそもの目標値の設定に対する疑問を感じることも多く、評価軸となる実績のとらえ方に共通理解を持つことの難しさを痛感しました。

市民が直接事業評価に関わることができる機会は貴重であり、市議会とともに、市民一人ひとりがこのような行政施策のPDCAプロセスにきちんと関心を払い、積極的に関わっていくことの重要性を感じました。

8 資料

- ・ しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会設置要綱
- ・ しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会名簿
- ・ しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 平成22年度開催実績
- ・ しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 平成21年度評価結果一覧
- ・ 表の見方

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 しあわせ倍増プラン2009に掲載された事業の進捗度及び成果を評価するとともに、その評価結果を市民へ報告するため、しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員13人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 公募による市民
- (2) 関係団体の代表者
- (3) 識見を有する者
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は、1年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び職務代理者)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

4 委員会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、政策局都市経営戦略室において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月30日から施行する。

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会名簿

役 職	氏 名	備 考
委 員 長	廣 瀬 克 哉	法政大学法学部教授
委 員 長 職務代理	長 野 基	跡見学園女子大学マネジメント学部 専任講師
委 員	磯 田 和 男	さいたま市PTA協議会会長
委 員	伊 藤 巖	さいたま市自治会連合会会長
委 員	伊 藤 麻 美	さいたま市行財政改革有識者会議委員 日本電鍍工業株式会社代表取締役
委 員	猪 野 智 久	公募市民
委 員	川 嶋 真之輔	公募市民
委 員	栗 原 俊 明	公募市民
委 員	野 崎 博 行	埼玉中央青年会議所理事長 ※第5回から委員に就任
	江 原 大 輔	埼玉中央青年会議所 直前理事長 ※委員期間：第1回～第4回
委 員	延 原 正 弘	公募市民
委 員	橋 本 克 己	公募市民
委 員	町 田 直 典	公募市民
委 員	三 浦 匡 史	さいたまNPOセンター理事 ※第4回から委員に就任
	東 一 邦	さいたまNPOセンター理事 ※委員期間：第1回～第3回

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 平成22年度開催実績

月日・場所	事項	内容
4月30日(金)	市民評価委員会設置要綱等の施行	○しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会設置要綱施行 ○しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会傍聴要領施行
5月1日(土)～	公募委員の募集開始	○さいたま市ホームページ・インフォメーションに公募委員の募集記事を掲載 ○市報5月1日号に公募委員の募集記事を掲載
7月2日(金) 浦和コミュニティセンター 第4集会室	第1回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○委嘱状の交付 ○委員長及び委員長職務代理者の選出 ○評価方法及び今後の進め方について
7月23日(金) 中央図書館 イベントルーム	第2回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・行動宣言(3事業)
8月10日(火) 浦和コミュニティセンター 第7集会室	第3回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・行動宣言(2事業) ・条例宣言(7事業) ・行財政改革(7事業)
8月27日(金) 中央図書館 イベントルーム	第4回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・行財政改革(20事業)
9月15日(水)	しあわせ倍増プラン事業の現地視察	○視察先 ・CSR活動事例(埼玉トヨペット(株)) ・高沼用水路の整備事業 ・下落合小学校緑のカーテン事業 ・さいたまスーパーアリーナ壁面緑化事業 ・さいたま新都心駅LED化事業
9月15日(水) 浦和コミュニティセンター 第6集会室	第5回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・行財政改革(1事業) ・市民・自治(3事業) ・子ども(8事業)
9月29日(水) 中央図書館 イベントルーム	第6回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・子ども(16事業)
10月14日(木) 中央図書館 イベントルーム	第7回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・高齢者(7事業) ・健康・安全・安心(11事業)
10月28日(木) 中央図書館 イベントルーム	第8回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・健康・安全・安心(6事業) ・環境・まちづくり(14事業)
11月11日(木) 中央図書館 イベントルーム	第9回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・環境・まちづくり(11事業) ・経済・雇用(7事業)
11月17日(水) 中央図書館 イベントルーム	第10回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○しあわせ倍増プラン2009の評価・検証 ・経済・雇用(13事業) ・地域間対立を越えて(3事業)
12月9日(木) 中央図書館 イベントルーム	第11回しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会	○評価報告書の取りまとめ ○市民評価報告会の開催について
12月18日(土) 浦和コミュニティセンター 多目的ホール	しあわせ倍増プラン2009市民評価報告会	○評価報告

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 平成21年度評価結果一覧

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
行動宣言	I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。	4年以内	b	8	b	7.3	6	4	1
								54.5%	36.4%	9.1%
	I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。	4年以内	b	7	b	6.9	4	6	1
								36.4%	54.5%	9.1%
	I-3	現場訪問を400回実施。	4年以内	a	9	a	8.5	3	8	0
								27.3%	72.7%	0.0%
	I-4	学校訪問を全校実施	4年以内	b	7	b	7.2	3	8	0
								27.3%	72.7%	0.0%
	I-5	職員との車座集会を100回開催。	4年以内	b	7	b	7.1	4	6	1
								36.4%	54.5%	9.1%
条例宣言	II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。	すぐ	c	4	c	3.5	2	6	3
								18.2%	54.5%	27.3%
	II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。	すぐ	b	7	b	6.9	2	8	1
								18.2%	72.7%	9.1%
	II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。	すぐ	b	8	b	7.7	6	5	0
								54.5%	45.5%	0.0%
	II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。	2年以内	b	7	b	6.9	3	8	0
							27.3%	72.7%	0.0%	
	II-5	「文化都市創造条例」を制定します。	2年以内	c	4	c	3.7	2	6	3
								18.2%	54.5%	27.3%
	II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。	3年以内	b	7	b	7.1	6	5	0
								54.5%	45.5%	0.0%
	II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。	4年以内	b	7	b	6.8	5	6	0
								45.5%	54.5%	0.0%
行財政改革	1-1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(行財政改革推進本部の設置)	すぐ	b	7	b	7.0	6	5	0
								54.5%	45.5%	0.0%
	1-2	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(事務事業評価の見直し)	すぐ	b	8	b	7.8	7	4	0
								63.6%	36.4%	0.0%
	1-3	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(補助事業の見直し)	すぐ	b	7	b	7.0	6	5	0
								54.5%	45.5%	0.0%
	1-4	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(外郭団体改革)	すぐ	b	7	b	7.1	6	5	0
								54.5%	45.5%	0.0%
	1-5	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(公共施設マネジメント会議設置)	すぐ	b	8	b	7.8	6	5	0
								54.5%	45.5%	0.0%
	2-1	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(窓口改革・権限移譲<統括>)	すぐ	b	7	b	7.0	6	6	0
								50.0%	50.0%	0.0%

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
行財政改革	2-2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(予算)	すぐ	b	7	b	6.9	6	6	0
								50.0%	50.0%	0.0%
	2-3	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(組織・人事)	すぐ	b	7	b	6.8	6	6	0
								50.0%	50.0%	0.0%
	2-4	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(くらし応援室の設置)	すぐ	b	7	b	7.1	5	5	2
								41.7%	41.7%	16.6%
	3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。	すぐ	b	7	b	7.1	4	7	1
								33.3%	58.3%	8.4%
	4	市長の退職手当を50%減額します。	すぐ	b	8	b	7.8	2	4	4
								20.0%	40.0%	40.0%
	5	市長給与を10%削減します。	すぐ	b	8	b	7.8	2	4	4
								20.0%	40.0%	40.0%
	6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。	すぐ	b	7	b	6.9	4	8	0
								33.3%	66.7%	0.0%
	7	一職員一改革提案制度を創設します。	すぐ	c	4	c	4.2	7	4	1
								58.3%	33.3%	8.4%
8-1	政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(予算編成過程の公開)	すぐ	b	8	b	7.3	6	6	0	
							50.0%	50.0%	0.0%	
8-2	政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(会派要望への対応状況の公表)	すぐ	b	6	b	6.6	4	7	1	
							33.3%	58.3%	8.4%	
9-1	情報公開日本一を実現します。(情報提供体制の整備)	2年以内	b	7	b	7.0	6	5	1	
							50.0%	41.7%	8.3%	
9-2	情報公開日本一を実現します。(都市経営戦略会議の審議内容等の公表)	2年以内	b	7	b	6.9	4	6	2	
							33.3%	50.0%	16.7%	
9-3	情報公開日本一を実現します。(パブリックコメントの充実)	2年以内	c	4	c	3.7	0	11	1	
							0.0%	91.7%	8.3%	
9-4	情報公開日本一を実現します。パブリシティの推進)	2年以内	b	8	b	7.5	4	6	2	
							33.3%	50.0%	16.7%	
9-5	情報公開日本一を実現します。(身近な道路整備要望への対応状況の公表)	2年以内	b	7	b	7.0	1	9	2	
							8.3%	75.0%	16.7%	
9-6	情報公開日本一を実現します。(市へ寄せられた意見とその対応状況の公表)	2年以内	b	6	b	6.4	4	8	0	
							33.3%	66.7%	0.0%	
10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。	2年以内	b	7	b	7.3	1	8	2	
							9.1%	72.7%	18.2%	
11	職員の自動的な天下りを廃止します。	2年以内	a	9	b	8.3	3	4	3	
							30.0%	40.0%	30.0%	
12-1	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(行政職への民間人登用)	2年以内	b	7	b	7.0	5	7	0	
							41.7%	58.3%	0.0%	

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
行財政改革	12-2	行政職への民間人登用（民間企業等経験者の採用）	2年以内	b	7	b	7.0	4	7	0
								36.4%	63.6%	0.0%
	12-3	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。（適材適所の人事配置）	2年以内	b	7	b	6.9	6	4	0
								60.0%	40.0%	0.0%
	13	電子市役所を構築します。	4年以内	b	7	b	7.0	5	6	0
								45.5%	54.5%	0.0%
市民・自治	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。	すぐ	b	7	b	6.8	3	10	0
								23.1%	76.9%	0.0%
	15	市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。	2年以内	b	7	b	7.0	4	9	0
								30.8%	69.2%	0.0%
	16	大学コンソーシアムの仕組みを構築します。	4年以内	b	7	b	7.0	3	8	2
								23.1%	61.5%	15.4%
子ども	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。	すぐ	b	7	b	6.7	6	7	0
								46.2%	53.8%	0.0%
	18-1	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎や体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。（読み・書き・そろばんプロジェクト）	2年以内	c	4	c	4.3	3	10	0
								23.1%	76.9%	0.0%
	18-2	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎や体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。（なわとび・逆上がりプロジェクト）	2年以内	b	7	b	7.0	1	8	3
								8.3%	66.7%	25.0%
	18-3	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎や体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。（あいさつ・礼儀）	2年以内	b	7	b	7.0	4	7	2
								30.8%	53.8%	15.4%
	18-4	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎や体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。（早寝・早起き・朝ごはん）	2年以内	b	7	b	7.0	2	10	1
								15.4%	76.9%	7.7%
	19	「放課後子ども教室」を倍増します。	2年以内	b	7	b	7.0	4	9	0
								30.8%	69.2%	0.0%
	20-1	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員（保健師、児童相談所員など）を増員します。（児童相談所の充実）	2年以内	b	7	b	7.0	11	1	0
								91.7%	8.3%	0.0%
	20-2	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員（保健師、児童相談所員など）を増員します。（保健所の充実）	2年以内	c	4	c	5.3	10	1	1
								83.4%	8.3%	8.3%
	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。	4年以内	c	5	c	4.8	5	8	0
								38.5%	61.5%	0.0%

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
子ども	22	子どもの想像力を高める「子ども博物館構想」を推進します。	4年以内	b	7	b	7.0	0	7	6
								0.0%	53.8%	46.2%
	23-1	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(1日保育士体験)	4年以内	a	9	b	8.0	3	8	2
								23.1%	61.5%	15.4%
	23-2	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(子育て支援センターの活用)	4年以内	b	7	b	7.0	2	10	1
								15.4%	76.9%	7.7%
	23-3	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(ワークライフバランスの認知度向上)	4年以内	b	6	b	5.9	0	13	0
								0.0%	100.0%	0.0%
	23-4	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策)	4年以内	b	7	b	6.7	2	11	0
								15.4%	84.6%	0.0%
	24-1	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(認可保育所)	4年以内	b	7	b	7.2	9	4	0
								69.2%	30.8%	0.0%
	24-2	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(ナーサリールーム・家庭保育室)	4年以内	a	9	b	8.3	9	4	0
								69.2%	30.8%	0.0%
24-3	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(放課後児童クラブ)	4年以内	a	9	a	8.8	8	5	0	
							61.5%	38.5%	0.0%	
25-1	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備します。(小児救急)	4年以内	a	9	a	9.0	10	3	0	
							76.9%	23.1%	0.0%	
25-2	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備します。(産科救急)	4年以内	b	7	b	7.0	11	2	0	
							84.6%	15.4%	0.0%	
26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。	4年以内	b	7	b	6.9	0	12	1	
							0.0%	92.3%	7.7%	
27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。	4年以内	c	5	c	5.3	3	10	0	
							23.1%	76.9%	0.0%	
28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。	4年以内	b	7	b	7.0	5	7	0	
							41.7%	58.3%	0.0%	
29	学校教育における食育を推進します。	4年以内	b	7	b	7.0	3	10	0	
							23.1%	76.9%	0.0%	
30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。	4年以内	b	8	b	7.4	3	10	0	
							23.1%	76.9%	0.0%	
高齢者	31	介護する人への支援体制を充実します。	すぐ	b	7	b	7.0	5	7	0
								41.7%	58.3%	0.0%
	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。	すぐ	b	7	b	6.9	5	7	0
								41.7%	58.3%	0.0%
33-1	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(高齢者サロン)	4年以内	c	4	c	4.3	3	9	0	
							25.0%	75.0%	0.0%	
33-2	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(介護者サロン)	4年以内	a	9	a	8.9	6	6	0	
							50.0%	50.0%	0.0%	

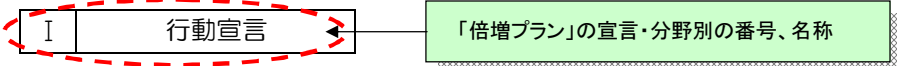
宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
高齢者	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。	4年以内	c	4	c	4.1	3	8	1
								25.0%	66.7%	8.3%
	35	シニアユニバーシティを充実します。	4年以内	b	6	b	5.8	2	8	1
								18.2%	72.7%	9.1%
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。	4年以内	b	7	b	7.0	2	7	3
								16.7%	58.3%	25.0%
健康・安全・安心	37-1	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(食生活・運動)	4年以内	b	7	b	7.0	2	8	2
								16.7%	66.6%	16.7%
	37-2	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(介護予防)	4年以内	a	9	a	8.8	4	7	1
								33.3%	58.3%	8.4%
	38-1	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(多目的広場整備方針の決定)	4年以内	b	7	b	6.9	1	9	2
								8.3%	75.0%	16.7%
	38-2	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(都市公園内のグラウンド等の個人への開放)	4年以内	b	7	b	7.0	1	8	3
								8.3%	66.7%	25.0%
	38-3	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(民有地を活用した多目的広場の整備)	4年以内	b	7	b	7.0	0	10	2
								0.0%	83.3%	16.7%
	38-4	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。((仮称)スポーツふれあい広場の整備)	4年以内	b	7	b	7.0	0	10	2
								0.0%	83.3%	16.7%
	38-5	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(大学との連携による多目的広場の整備)	4年以内	b	7	b	7.0	0	10	2
								0.0%	83.3%	16.7%
	38-6	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備)	4年以内	b	7	b	7.0	0	10	2
								0.0%	83.3%	16.7%
39-1	万全な危機管理体制を構築します。(総合防災情報システムの構築)	4年以内	b	7	b	7.0	7	5	0	
							58.3%	41.7%	0.0%	
39-2	万全な危機管理体制を構築します。(危機事案発生時の初動体制の確保)	4年以内	b	7	b	7.0	8	4	0	
							66.7%	33.3%	0.0%	
39-3	万全な危機管理体制を構築します。(防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築)	4年以内	c	5	c	4.8	6	6	0	
							50.0%	50.0%	0.0%	
39-4	万全な危機管理体制を構築します。(災害時要援護者への支援)	4年以内	b	7	b	6.8	7	5	0	
							58.3%	41.7%	0.0%	
39-5	万全な危機管理体制を構築します。(マンホールトイレの整備)	4年以内	b	7	b	7.1	2	10	0	
							16.7%	83.3%	0.0%	
39-6	万全な危機管理体制を構築します。(新型インフルエンザ対策)	4年以内	b	7	b	7.2	7	5	0	
							58.3%	41.7%	0.0%	
39-7	万全な危機管理体制を構築します。(地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進)	4年以内	a	9	a	8.8	1	10	1	
							8.3%	83.4%	8.3%	
40	民間住宅の耐震化補助事業を拡大します。	すぐ	b	7	b	7.0	5	6	1	
							41.7%	50.0%	8.3%	

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
健康・安全・安心	41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。	すぐ	b	7	b	7.0	2	10	0
								16.7%	83.3%	0.0%
環境・まちづくり	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。	4年以内	b	7	b	7.0	2	8	2
								16.7%	66.6%	16.7%
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。	4年以内	c	4	c	4.5	2	9	1
								16.7%	75.0%	8.3%
	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。	4年以内	b	8	b	7.4	3	8	1
								25.0%	66.7%	8.3%
	45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。	すぐ	b	7	b	6.8	2	7	2
								18.2%	63.6%	18.2%
	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。	すぐ	b	8	b	7.7	5	5	2
								41.7%	41.7%	16.6%
	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。	3年以内	c	4	c	4.0	2	6	3
								18.2%	54.5%	27.3%
	48-1	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公園の芝生化)	4年以内	a	9	a	8.5	1	11	0
								8.3%	91.7%	0.0%
	48-2	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (学校の芝生化)	4年以内	b	7	b	6.9	0	11	1
								0.0%	91.7%	8.3%
48-3	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (保育園の芝生化)	4年以内	b	7	b	7.0	0	11	1	
							0.0%	91.7%	8.3%	
48-4	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (学校の緑のカーテン)	4年以内	b	7	b	7.0	2	9	1	
							16.7%	75.0%	8.3%	
48-5	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公共施設・家庭の緑のカーテン)	4年以内	b	7	b	7.0	2	8	1	
							18.2%	72.7%	9.1%	
48-6	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (公共施設の緑化)	4年以内	b	7	b	7.0	1	11	0	
							8.3%	91.7%	0.0%	
48-7	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (民間建築物の緑化)	4年以内	a	9	a	8.8	0	11	1	
							0.0%	91.7%	8.3%	
48-8	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。 (花と緑でいっぱい・区の花の制定)	4年以内	b	7	b	6.9	0	12	0	
							0.0%	100.0%	0.0%	
49-1	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (見沼基本計画の策定)	4年以内	b	7	b	6.9	6	6	0	
							50.0%	50.0%	0.0%	

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価							
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)					
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C			
環境・まちづくり	49-2	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (歴史的遺産・自然環境の活用)	4年以内	b	7	b	7.0	3	8	1	25.0%	66.7%	8.3%
	49-3	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (教育ファームの実施)	4年以内	b	7	b	7.0	5	7	0	41.7%	58.3%	0.0%
	49-4	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (市民農園の整備)	4年以内	c	4	c	4.3	1	10	1	8.3%	83.4%	8.3%
	49-5	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (東宮下調節池の広場整備)	4年以内	b	7	b	7.0	0	11	0	0.0%	100.0%	0.0%
	49-6	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。 (高沼用水路の整備)	4年以内	b	7	b	7.0	1	10	1	8.3%	83.4%	8.3%
	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。	4年以内	b	7	b	7.0	5	7	0	41.7%	58.3%	0.0%
	51-1	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(都市公園の整備)	4年以内	a	9	a	8.9	6	5	0	54.5%	45.5%	0.0%
	51-2	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(暮らしの道路・スマイルロードの整備)	4年以内	c	4	c	4.0	2	10	0	16.7%	83.3%	0.0%
	51-3	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(下水道の整備)	4年以内	b	7	b	7.0	4	7	0	36.4%	63.6%	0.0%
	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。	4年以内	c	4	c	4.1	4	8	0	33.3%	66.7%	0.0%
経済・雇用	53-1	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(セーフティネットの構築)	すぐ	b	8	b	7.7	8	4	0	66.7%	33.3%	0.0%
	53-2	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(ステップアップの取組)	すぐ	b	7	b	7.0	5	7	0	41.7%	58.3%	0.0%
	54-1	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(ものづくり企業支援事業)	4年以内	b	7	b	7.0	3	8	1	25.0%	66.7%	8.3%
	54-2	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(テクニカルブランド企業認証事業)	4年以内	b	7	b	7.0	2	10	0	16.7%	83.3%	0.0%
	54-3	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(戦略的企業誘致)	4年以内	b	7	b	7.0	7	5	0	58.3%	41.7%	0.0%
	54-4	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(産学連携によるイノベーション創出)	4年以内	b	7	b	6.9	2	10	0	16.7%	83.3%	0.0%
	54-5	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(新規就農者支援事業)	4年以内	c	5	c	5.0	3	8	1	25.0%	66.7%	8.3%

宣言・分野	No.	事業名	期限	市の内部評価		市民評価委員会の評価				
				達成度		達成度		重要度 (上段委員数、下段割合)		
				進捗度	点数	進捗度	点数	A	B	C
経済・雇用	54-6	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(事業所内保育施設推進)	4年以内	b	7	b	7.0	4	8	0
								33.3%	66.7%	0.0%
	54-7	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(介護福祉士資格取得支援)	4年以内	c	4	c	4.0	0	11	1
								0.0%	91.7%	8.3%
	54-8	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(ホームヘルパー2級資格取得支援)	4年以内	b	7	b	7.0	0	11	1
								0.0%	91.7%	8.3%
	54-9	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(福祉介護人材の養成確保)	4年以内	b	8	b	7.4	1	10	1
								8.3%	83.4%	8.3%
	54-10	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(ものづくり人材支援事業)	4年以内	b	7	b	7.0	5	7	0
								41.7%	58.3%	0.0%
	54-11	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(マッチング事業)	4年以内	a	9	a	8.5	5	7	0
								41.7%	58.3%	0.0%
	55	市内の観光資源を有効活用し、海外も含め、観光客を積極的に誘致します。	4年以内	b	7	b	7.0	3	7	2
								25.0%	58.3%	16.7%
56-1	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(人材育成支援)	4年以内	b	7	b	7.0	3	9	0	
							25.0%	75.0%	0.0%	
56-2	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(創業環境支援)	4年以内	b	7	b	7.0	3	8	1	
							25.0%	66.7%	8.3%	
57-1	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(コミュニティビジネス育成事業)	4年以内	b	7	b	7.0	3	9	0	
							25.0%	75.0%	0.0%	
57-2	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(コミュニティビジネス促進事業)	4年以内	b	8	b	7.7	2	9	1	
							16.7%	75.0%	8.3%	
58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。	4年以内	b	8	b	7.6	2	10	0	
							16.7%	83.3%	0.0%	
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。	4年以内	b	7	b	7.0	1	10	1	
							8.3%	83.4%	8.3%	
地域間対立を越えて	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての諸機能を高める開発を推進します。	4年以内	b	7	b	7.0	7	4	1
								58.3%	33.3%	8.4%
	61	地下鉄7号線は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。	4年以内	b	7	b	7.0	6	5	1
							50.0%	41.7%	8.3%	
62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。	4年以内	b	7	b	7.0	3	8	1	
							25.0%	66.7%	8.3%	
平均(委員数は合計)				6.9		6.8		555	1120	119
								31.0%	62.3%	6.7%

表の見方



No	項目		達成度			重要度			
	H21目標	H21取組実績	内部評価	市民評価	コメント	A	B	C	コメント
I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。 (4年以内)		b-8	b-7.3	・しあわせ増倍プラン自体の取組を市民に知らせる工夫がほしい。 ・前年度事業の検証大会は、事業の修正を考慮すると次年度の9月までに開催すべきである。	6	4	1	・市民が市政の現状や進行状況、今後の展望を知り、市政への参加を促す絶好の機会と考える。 ・達成状況や問題点を「見える化」して市民に説明していく事が市政にとって益々重要である。
	しあわせ増倍プランの策定	目標どおり進捗							
I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。 (4年以内)		b-7	b-6.9	・計21回のタウンミーティングの開催とホームページによる公開がなされていることにより、数値目標、取組内容、事業計画のとおりに進捗していると判断した。 ・参加人数を目安として入れるべきである。	6	4	1	・市民の声を迅速に市政に反映するために、直接対話する事業は重要である。 ・TMを行った結果を、どのように市政に反映し、どのように発信されていくのか明確ではないため、この事業がもつ重要性がはっきりしていない。
	各区年2回開催(20回)	目標どおり進捗(21回)							
I-3	現場訪問を400回実施。 (4年以内)		a-9	a-8.5	・97回の現場訪問は高く評価したいが、区役所や公共施設などいわば市役所内が多いので、高い評価にはしにくい。 ・今後は、市民がさまざまな課題の解決のために努力している現場を積極的に訪問するなど、市民の意見を取り入れる工夫を期待したい。	8	3	0	・さまざまな現場で市長の顔を見ることができると、意見を述べることができるのは市民にとっては市政が近く感じられるが、数値目標にとらわれると、内容の充実に対する取組が疎かになるのではないかと懸念がある。
	現場訪問70回実施	97回実施							
I-4	学校訪問を全校実施 (4年以内)		b-7	b-7.2	・学校訪問30校の実施など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。H21年度、高校は未訪問とのことなので、今年度は改善を望む。 ・学校訪問は、学校側で受入準備を整えた状況での訪問では問題は見える事が少ないと思う。自然体での実施が望ましいと感じる。	8	3	0	・次の世代との対話は変わらず重要である。 ・現場訪問にも、学校を訪問している場合がある。両者の位置付けの違いなどについても説明が必要である。必ずしも両者を区別する必要はないのかも知れない。
	学校訪問30校実施	目標どおり進捗							
I-5	職員との車座集会を100回開催。 (4年以内)		b-7	b-7.1	・車座集会21回の実施など、H21年度の数値目標等のとおり進捗したと判断した。 ・車座集会の実施回数が予定どおり進捗し、かつアンケート調査によって職員の意識に変化が現れたことが明示されたため、工程表どおりと判断した。	6	4	1	・職員の仕事に対する意欲の向上や仕事の方向性を導く上で非常に有効な手段である。 ・組織としてはとても大切なこと、意見の採用状況や今後の変化等ではAになるのでは。
	車座集会20回実施	目標どおり進捗(21回)							

